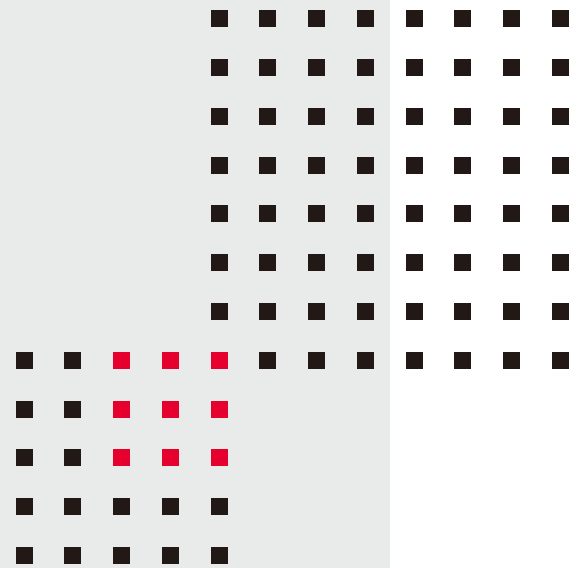


# 2019

FUJIFILM SQUARE



フジフィルム スクエア  
2019年度 活動報告書

## 施設コンセプト



「写真の持つ力に感動しました」「思わず私も撮りたくなりました」  
訪れたお客様から、そんなたくさんのお声をいただいています。

フジフィルム スクエアはこれからも、  
価値ある作品との出会いを通じて、  
人と人が心豊かにつながる場でありたいと考えています。

例えば、見応えあるオリジナルプリントを、思う存分鑑賞する。

出展者の、作品作りの背景や意図を理解する。

写真家の心に共感し、一緒に見ている人と気持ちを分かち合う。

歴代のカメラや写真の歴史を知り、好奇心の羽根を広げる。

この場所で生まれる出会いや感動で、お客様の心が鮮やかに彩られ、  
その体験が色褪せずに記憶に残ること。それがフジフィルム スクエアの願いです。

“こころ彩るところ”

私たちはこの言葉を胸に、さまざまな活動を通じて写真の素晴らしさや楽しさ、  
そして残す大切さを伝え、写真文化の発展と心豊かな社会の実現に貢献していきます。

**FUJIFILM SQUARE**

## ご挨拶

「FUJIFILM SQUARE(フジフィルム スクエア)」は、富士フィルム株式会社東京ミッドタウン(東京都港区)本社にある複合型ショールームです。優れた作品の発表の場「富士フィルムフォトサロン」、写真の歴史とカメラの進化を学べる「写真歴史博物館」、最新の写真関連製品を試せる「タッチ フジフィルム」、化粧品・サプリメントなどの当社ヘルスケア商品を取り揃えた直営店「ASTALIFT ROPPONGI(フジフィルム ヘルスケア ショップ)」で構成されています。

当社は創業以来「写真文化」の発展のため、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動、そして写真を残す大切さを一貫して伝えてきました。1957年には、プロ、アマチュア問わず優れた作品を発表する場として富士フォトサロンを銀座に開館。2000年代以降、デジタル化の進展により、写真フィルムの需要が急減し、業界全体が大きな岐路に立たされた時も、当社は「写真文化を守り、育てる」ことを改めて決意し、写真事業の存続を宣言しました。2007年には、東京ミッドタウンへの本社移転と同時に、「富士フォトサロン」から改名した「富士フィルムフォトサロン」に、写真の歴史とカメラの進化を学べる「写真歴史博物館」などを併設し、展示内容を拡充させ「フジフィルム スクエア」として、オープンしました。また、2014年には創立80年を機に、幕末・明治から現代に至る日本の写真史を飾る101人の作家の選りすぐりの1枚を、「フジフィルム・フォトコレクション」として収録し、フジフィルム スクエアをはじめ、全国の美術館での展示を通じ、その芸術的価値をお伝えすると共に、日本写真史の体系的な理解に役立てていただいています。そして、2018年には公益社団法人企業メセナ協議会<sup>\*1</sup>主催の「メセナアワード2018」において、優秀賞「瞬間の芸術賞」を受賞しました。フジフィルム スクエアは、年中無休<sup>\*\*2</sup>・入館無料で、いつでも写真作品などの展示をお楽しみいただける場として、2007年の開館以来2019年度までに開催した写真展は延べ1,400回以上で、700万人以上の幅広い年代の方々にご来館いただいています。

平成から令和への時代の橋渡しとなった2019年度は、平成をスナップというジャンルで総括した「平成・東京・スナップLOVE」、美術と写真の境界を超えた写真表現から「写真とは何か」を再考した「『覚醒する写真たち』今 道子+佐藤時啓」、文学の世界を写真で表現した「小林 修 写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代」など、新しい取り組みも交えながら、バリエーション豊かな写真展を67本開催し、約48万人の方にご来館いただきました。イベントにおいても従来からのギャラリートークや講演会に加え、未来の写真家を応援する活動として新規にポートフォリオレビューを開催しました。そして、審査を経て選ばれた2名に写真展開催の権利をご提供しました。

2020年に入り、新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大しました。感染症に罹患された方、影響を受けている方々に心よりお見舞い申し上げます。そして、医療従事者の方々に感謝と尊敬を申し上げます。フジフィルム スクエアは新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から2月28日から6月8日まで臨時休館しました。その間もフジフィルム スクエアの公式Facebookで投稿した写真は、「素晴らしい写真を見て気持ちが優しくなった」と支持され、想定外の状況に置かれた時や、危機に立ち向かう時、写真が人を励ます力を持つことを示しました。新型コロナウイルスの影響で社会や生活環境は大きく変化しており、フジフィルム スクエアも写真展開催において新しい生活様式に適した形を模索しています。しかし、人間の喜びも悲しみも愛も感動も全てを表現する写真は、人間にとって無くてはならないものであり、当社が長年のお客様のご愛顧にお応えするためにも、写真文化の継承と発展を使命とすることには変わりはありません。富士フィルムは、写真のリーディングカンパニーとしてこれまで多くの「人」と「人」の心をつなぎ、写真の価値を発信し続けてきました。これからも「時代を越えても変えてはならない価値」を守り続けると同時に、時と共に変化、多様化する皆様の写真表現のニーズに応える、新しい技術やサービスを創造し続けることで、新たな時代の「写真文化」の開拓にチャレンジし、より心豊かな社会の実現のために貢献していきます。

<sup>\*1</sup> 企業による芸術文化支援(メセナ)活動の活性化を目的に1990年に設立された、日本で唯一のメセナ専門の中間支援機関

<sup>\*\*2</sup> 年末年始を除く

## CONTENTS

### 企画写真展レポート

#### FUJIFILM SQUARE 企画写真展

- 01 銀塩写真表現の深淵を探求し続ける写真家たち その原点と今  
ゼラチンシルバーセッション  
■「藤井 保 広川泰士 平間 至 瀧本幹也」—すべてはここからはじまった—  
■「FUJIFILM ACROS × 39 Photographers」 …… 06
- 02 11人の写真家の物語。新たな時代、令和へ  
「平成・東京・スナップLOVE」 Heisei - Tokyo - Snap Shot Love …… 08
- 03 小林 修 写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代 …… 10
- 04 ラージフォーマットデジタルカメラGFXで描く、カナダ新絶景を巡る旅  
吉村和敏写真展「Du CANADA」 …… 12
- 05 夏休み特別イベント【生物がつくる形のふしぎ】  
写真展「放散虫(ほうさんちゅう)」～小さなふしぎな生き物の形～ …… 13
- 06 フジフィルム スクエア コンシェルジュ  
プレミアムプリント展 I・II ～わたしたちもトライしました～ …… 14
- 07 角田明子写真展「サンタさんがいっぱい」 Merry Many Santa Clauses! …… 15
- 08 相原正明写真展「和美・KATACHI(わび・かたち)」—ネオバン100 ACROS IIで撮る日本の美— …… 16

#### 富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト[写真家たちの新しい物語]

- 09 渋谷 敦志写真展「まなざしが会おう場所へ—渴望するアフリカ—」 …… 17
- 10 田頭 真理子写真展「夢えっと Onomichi donkey paradise」 …… 18
- 11 千葉 格 報道写真展「BACK-GROUND」文・細江克弥 …… 19

#### 当社共催・協力写真展

- 12 第7回アフリカ開発会議(TICAD7)開催記念写真展「アフリカ、胎動する大陸」 …… 20
- 13 KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 SPECIAL EDITION TOKYOGRAPHIE 2019 …… 21  
■ アルバート・ワトソン「Wild」 ■ 関 健作「2:16.22 —その記録の向こう側—」

#### FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展

- 14 日本の近代写真を支えてしまった?! 波乱万丈の男がいた  
「明治に生きた“写真大尽” 鹿島清兵衛 物語」 …… 22
- 15 写真の錬金術 二人の表現者  
「覚醒する写真たち」今 道子 + 佐藤時啓 …… 23
- 16 「日本の美を追い求めた写真家・岩宮武二 京のいろとかたち」 …… 24

### 見学会・レセプションレポート

### 新型コロナウイルス感染症への対応

### 写真展開催リスト

当社主催企画展10本、その他当社主催・共催・協力写真展19本、公募展38本、合計67本

### 施設概要レポート

### 施設案内

…… 25

…… 27

…… 28

…… 32

…… 34

銀塩写真表現の深淵を探索し続ける写真家たち その原点と今

## ゼラチンシルバーセッション

■「藤井 保 広川泰士 平間 至 瀧本幹也」—すべてはここからはじまった—  
■「FUJIFILM ACROS × 39 Photographers」

2019年4月26日～5月9日  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・スペース2・ミニギャラリー



藤井 保  
広川泰士  
平間 至  
瀧本幹也

すべては  
ここから  
はじまった

FUJIFILM SQUARE 企画写真展  
2019年4月26日【金】～5月9日【木】 10:00～19:00  
最終日のみ14:00まで。入場は閉館10分前まで。会期中無休・入場無料

# GELATIN SILVER SESSION

ゼラチンシルバーセッション FUJIFILM SQUARE  
主催:ゼラチンシルバーセッション実行委員会、富士フィルム株式会社 協力:AXISギャラリー、コンタクト 後援:港区教育委員会

池田裕一 / 井津由美子 / 稲垣徳文 / 井上佐由紀 / 薄井一謙 / Bruce Osborn / 片桐飛鳥 / 勝倉峻太 / 叶野千晶 / 草野庸子 / 操上和美 / 小瀧達郎 / 小林 昭 / 小林紀晴 / 小林伸一郎 / 小林真梨子 / 嶋田篤人 / 菅原一剛 / 瀬尾浩司 / 田尾沙織 / 瀧本幹也 / 百々 新 / 百々俊二 / 百々 武 / 中野正貴 / 中藤毅彦 / 中道 淳 / ハービー・山口 / 蓮井幹生 / 平間 至 / 広川泰士 / 広川智基 / 藤井 保 / 藤塚光政 / 水越 武 / 村越としや / 森本美絵 / 山内 悠 / 若木信吾

FUJIFILM ACROS × 39 Photographers

### 展示概要

ゼラチンシルバーセッション(GSS)は、銀塩フィルム・印画紙写真ならではの風合いや楽しさを伝え、失われつつある銀写真プリント表現を次の世代へ繋いでいくことを目的とする、写真家たちによる自主的なプロジェクトです。13年目を迎えたGSSによる、第10回の「ゼラチンシルバーセッション展」が4月26日(金)～5月6日(月・祝)AXISギャラリー(東京都港)にて開催されることとなり、これを記念して、さらに2つの写真展を同時開催しました。

■藤井 保、広川泰士、平間 至、瀧本幹也—すべてはここからはじまった—  
デジタル化のうねりが写真界を根底からゆるがしていた2006年に本活動をスタートさせた、4人の写真家の写真展。「お互いのネガを交換してそれぞれの解釈でプリントを仕上げる※」ことで、写真家アンセル・アダムスの「ネガは楽譜プリントは演奏」という言葉通り、銀写真プリント表現の多彩さを具現化する試みを行った第1回「GSS展」の貴重な作品と、4人の代表作をレビューする写真展。  
※4人の写真家が1点ずつ持ち寄った4枚のネガを原稿に、4人がそれぞれの解釈で計16枚のプリントを仕上げました。

### 出展写真家

池田裕一、井津由美子、稲垣徳文、井上佐由紀、薄井一謙、Bruce Osborn、片桐飛鳥、勝倉峻太、叶野千晶、草野庸子、操上和美、小瀧達郎、小林 昭、小林紀晴、小林伸一郎、小林真梨子、嶋田篤人、菅原一剛、瀬尾浩司、田尾沙織、瀧本幹也、百々 新、百々俊二、百々 武、中野正貴、中藤毅彦、中道 淳、ハービー・山口、蓮井幹生、平間 至、広川泰士、広川智基、藤井 保、藤塚光政、水越 武、村越としや、森本美絵、山内 悠、若木信吾

### 展示作品点数

「藤井 保 広川泰士 平間 至 瀧本幹也」—すべてはここからはじまった—:52点  
「FUJIFILM ACROS × 39 Photographers」:39点

### クレジット

主催:ゼラチンシルバーセッション実行委員会、富士フィルム株式会社  
協力:AXISギャラリー、コンタクト  
デザイン:高林直俊  
プリント制作:プロラボクリエイト、東京カラー工藝社、フォトグラファーズラボ、写真弘社、堀内カラー、PHOTO-LABO、LABOTAKE 他

### 併催イベント

トークイベント「ゼラチンシルバーセッション10回の軌跡」  
2019年4月27日(土) 14:30～16:00  
ゲスト:写真家 藤井 保、広川泰士、平間 至、瀧本幹也  
アートディレクター 幅 允孝

### 販売物

- ・GELATIN SILVER SESSION 2008年
- ・GELATIN SILVER SESSION 2012年
- ・GELATIN SILVER SESSION 2013年
- ・GELATIN SILVER SESSION 2015年
- ・GELATIN SILVER SESSION 2019年

### ご来館者数

合計18,401人(14日間)

### ■FUJIFILM ACROS × 39 Photographers

今回のGSS賛同写真家から39人が、既に生産を終了していた黒白フィルム FUJIFILM ネオパン100 ACROSを使って撮り下ろし、最新作計39点を一堂に持ち寄った豪華な合同展です。  
銀写真プリント表現の深淵を探索し続ける写真家たちの活動の原点と今日の作品から、その魅力を存分に堪能していただきました。

### 実施レポート

13年前の第1回GSS展の作品からは、後世に銀塩写真表現を引き継ぐため自主的に立ち上がった当時の強い使命感が感じられ、4人の代表作からは今も変わらずフィルムで新たな作品作りに挑むゆるぎない姿勢を感じとっていただくことができました。

ACROS展には、当初想定していた人数をはるかに上回る39人の作家にご参加いただきました。モノクロを懐かしむベテランの年代から、これを新鮮な表現と受け止めるデジタルネイティブの10代、20代まで、様々な層の方々がご来館され、黒白フィルムの持つ味わいと幅広さを感じておられました。

来館者はいずれの写真展からも、第一線で活躍される作家それぞれの感性と表現力を感じながら、1点1点の作品をじっくりと時間をかけてご覧になられました。会場内には、第1回から10回までの「GSS展」の貴重なポスターや各図録、活動の記録写真なども展示、一部販売も行いました。

来館者のアンケートでは「銀写真プリントは良いですね!」「父が自分で現像していたのを思い出しました。銀写真プリント懐かしい」「大学で写真を学んでいるので頑張ろうと刺激になりました」「期間中に再度訪れたい」との感想をいただきました。

また、会期中の4月27日(土)には、フジフィルム スクエア2F特設会場にて、トークイベント「ゼラチンシルバーセッション10回の軌跡」を開催、190人にご参加いただきました。第1回メンバーの4人に、当初から活動に協力されたブックディレクターの幅 允孝氏を加え、当社神奈川工場の見学会や、写真家らが当社担当部門に銀塩製品の継続を訴えた座談会、若年層への啓蒙活動として各地で開催した「暗室ワークショップ」、若い写真家のための「ポートフォリオレビュー」などさまざまな活動を通じて、銀塩写真表現のすばらしさを伝え続けた活動の足跡を振り返りました。



### ご来館者様の声

- 改めて銀写真プリントの魅力を感じました。
- たまたま通りかかって入りましたが、素敵な時間になりました。ありがとうございました。
- 美しい銀写真プリントがたくさんあって感動しました。
- ステキな写真を見ることができ、嬉しかったです。
- 写真の表現に対する視野が広がりました。
- モノクロの良さがよくわかった。
- 写真家の魂を感じました。
- フィルムの表現を大切にしたいと思った。
- 写真と銀塩の意義がよくわかった。
- フィルムに対する情熱を感じました。
- これからも良い写真展を見せてほしい。
- トークイベントでは写真家の方々の縦横のつながりが感じられ、とても楽しく拝聴しました。

11人の写真家の物語。新たな時代、令和へ

# 「平成・東京・スナップLOVE」 Heisei - Tokyo - Snap Shot Love

2019年6月21日～7月10日  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・スペース2・ミニギャラリー



## 展示概要

31年間続いた「平成」、すさまじい勢いで変貌を続ける「東京」、そして写真家の一瞬の心の動きとカメラが運動したときに生まれる「スナップ」写真をキーワードに、さまざまな世代の写真家11人が平成の東京を舞台に生み出した作品をご紹介します。

都市に潜む人々の人間性を浮き彫りにする有元伸也氏、自由奔放な視線で東京を真正面からとらえるERIC氏、日記を綴るように街景をとらえる大西正氏、生まれ故郷でもある東京の下町を見つめ続ける大西みつぐ氏、都市の日常を軽快に提示するオカダキサラ氏、急激に姿を変えていく東京のスケッチを編んだ尾仲浩二氏、誰もいない東京をとらえ続けた中野正貴氏、変貌する都市を独自のモノクロ表現で提示する中藤毅彦氏、「幸せな瞬間」を探し求めるハービー・山口氏、日常風景の中に潜む空気と意識の間を絶妙にとらえる原美樹子氏、路上での人々との偶発的な出会いの高揚感をとらえる元田敬三氏。スナップの名手といわれるベテランから若手作家11人の、「平成」の街と人とカメラを通した11通りの対話からス

### 出展写真家

有元伸也、ERIC、大西正、大西みつぐ、オカダキサラ、尾仲浩二、中野正貴、中藤毅彦、ハービー・山口、原美樹子、元田敬三

### 展示作品点数

172点

### クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
企画：コンタクト  
デザイン：長尾敦子  
プリント制作：①写真家によるオリジナルプリント・ヴィンテージプリント  
②ラボ：プロラボクリエイト、東京カラー工藝社、フォトグラファーズラボ、写真弘社、堀内カラー

### 併催イベント

- ポर्टフォリオレビュー 一次選考（非公開）
  - ①2019年6月22日(土) 14:00～17:00
  - ②2019年6月30日(日) 14:00～17:00
  - ③2019年7月5日(金) 18:00～21:00
- ポर्टフォリオレビュー 最終選考会(公開)
  - 2019年7月7日(日) 14:00～15:15
- トークイベント
  - 2019年7月7日(日) 15:30～17:00
  - ゲスト：有元伸也、ERIC、大西正、大西みつぐ、オカダキサラ、尾仲浩二、中野正貴、中藤毅彦、ハービー・山口、原美樹子、元田敬三

### 主要メディア掲載

- ラジオ
  - J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」(6月25日)
- 新聞
  - 朝日新聞夕刊(東京、6月4日・18日)、日本経済新聞(東京、6月21日/大阪、6月21日)、毎日新聞夕刊(東京、7月3日)
- 写真・カメラ紙(誌)
  - コマースフォト(7月号)、アサヒカメラ(7月号、8月号、9月号、10月号)、カメラマン(7月号)、CAPA(7月号)、デジタルカメラマガジン(7月号)、日本カメラ(7月号、8月号)、風景写真(7・8月号)、フォトコン(7月号)、フォトテクニックデジタル(7月号)
- ウェブサイト
  - goo ニュース、mixi ニュース、LINE NEWS、infoseekニュース、朝日新聞デジタル&M、毎日新聞、Yahoo! ニュース

### ご来館者数

合計28,865人(20日間)

ナップの魅力を感じながら、新たな時代「令和」に思いをはせていただきたい、という思いを込めて展示しました。

あわせて、5月の「令和」改元以降に、写真家がinstaxチェキで撮り下ろした「東京」も、会場内でプロジェクション上映しました。

## 実施レポート

国内外の美術館に作品が収蔵されている著名作家、近年写真賞を受賞した旬の作家、今後の写真界を担う新進気鋭の作家が融合した、国内で例を見ない写真展となりました。展示作品も、ヴィンテージプリントから、本展に合わせて制作していただいた新作のプリント、「チェキ」で撮り下ろした作品までバラエティに富む172点。学生から作家の長年にわたるファンまで、さまざまな世代がご来館され、「貴重な写真を展示いただき、感謝します」「視野が広がった」など、感動の声をいただきました。

写真展開催を記念し、出展作家11名全員によるトークイベントも開催。各々の作品の紹介も交えながら、スナップを始めたきっかけやスナップに対する思いを、熱く語っていただきました。普段あまり会うことのできない作家の登壇に、参加者からは「写真家それぞれの視点が個性的」「11人全員の話が聞けるのはすごい」などの声をいただきました。

本展では、素晴らしい作品の展示やスナップの楽しさをお伝えするだけでなく、未来の写真家に作品制作の助言をいただくことを目的に、会期中3日にわたり計6名の出展作家による「ポर्टフォリオレビュー(作品講評会)」を実施しました。一般から公募した計58名が持ち寄った「ポर्टフォリオ(作品群)」をつぶさにみていただき、テーマや構成、撮影技法・プリント方法について、1人1人に丁寧なアドバイスをいただきました。また、講評と同時に、各日2名計6名の優れた作品を選考、後日行った「公開最終選考会」において、そのうちの2名に翌年フジフィルム スクエアでの写真展開催の権利をご提供しました。「ポर्टフォリオレビュー」は後日巡回展示した大阪会場でも同様に開催、参加者20名から2名に、富士フィルムフォトサロン大阪での写真展開催の権利をご提供しました。

レビューを受けた参加者からは「作品づくりに大変参考になった」「レビューのコメントが充実していた」と大変好評で、当館に対しても「これからも写真が好きな人に夢と希望を与え続けてほしい」という声が寄せられました。

## ご来館者様の声

- 元気が良かったです！
- 好きな写真家さんの作品が見られて良かったです^^
- 最近、写真に興味を持ったばかりなので無料でみれる機会はありがたいです。
- スナップ写真、いいですね！見に来て良かったです！
- 見応えがありました。見に来て良かったです。
- 何回来ても感動します。また来ます。
- 普段見過ごしがちなありのままの東京の群像をとらえた力作が多数展示され、感動いたしました。
- 私も写真を撮ってみようかな、と思いました。
- これからもスナップ写真を撮り続けようと思いました。
- トークイベントでは、スナップについての11人の写真家による答えがとても充実したものでした。すごく勉強になりました。
- 公開最終選考会に参加して、「写真を撮る」という1つのことに対して、一人一人いろいろな動機があることに改めて気づきました。
- 公開最終選考会で、著名な写真家の方々に講評いただけるチャンスを得て、希望がわいてくる。



# 小林 修 写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代

2019年11月1日～11月20日  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・スペース2・ミニギャラリー



歩いた風土、見抜いた時代

2019年  
11月1日(金)～20日(水)  
10時～19時(入場は閉館10分前まで)  
会期中無休・入場無料

小林修 写真展  
『街道をゆく』の視点

主催 富士フィルム株式会社 特別協力 公益財団法人 司馬遼太郎記念財団  
協力 株式会社朝日新聞出版、週刊朝日編集部 監修 村井重俊 村井重俊 週刊朝日編集部  
後援 港区教育委員会 企画 株式会社フォトクラシック  
後援 港区教育委員会 企画 株式会社フォトクラシック

展示作品点数  
96点

クレジット  
主催：富士フィルム株式会社  
後援：港区教育委員会  
監修：村井重俊(週刊朝日編集委員)  
特別協力：公益財団法人 司馬遼太郎記念財団  
協力：株式会社朝日新聞出版、週刊朝日編集部  
企画：株式会社フォトクラシック  
デザイン：脇野直人  
プリント制作：プロラボクリエイト

併催イベント  
トークショー  
①2019年11月9日(土) 13:30～  
②2019年11月10日(日) 13:30～  
ゲスト：小林 修、村井重俊  
※ 各回ともに約90分

販売物  
・小林 修「司馬遼太郎『街道をゆく』の視点」(朝日新聞出版、2019年)  
・村井重俊「街道についてゆく」(朝日新聞出版、2011年)  
・司馬遼太郎「街道をゆく」(朝日文庫/全43巻)  
・「司馬遼太郎の言葉 1・2・3」、「司馬遼太郎と宗教」、「司馬遼太郎と明治 1・2」(週刊朝日ムック)

主要メディア掲載  
・新聞  
朝日新聞夕刊(東京、11月5日/北九州、11月5日)、朝日新聞(東京、11月15日)  
・写真・カメラ紙(誌)  
アサヒカメラ(11月号、12月号)、カメラマン(11月号)、CAPA(11月号)、デジタルカメラマガジン(11月号)、日本カメラ(11月号)、風景写真(11月号)、フォトコン(11月号)  
・その他雑誌  
AERA(10月28日)、週刊朝日(10月29日、11月5日、11月12日)、週刊東洋経済(11月4日)  
・ウェブサイト  
infoseekニュース、goo ニュース、グノシー、mixi ニュース、Yahoo! ニュース、Yahoo! ロコ、朝日新聞デジタル&M、毎日新聞、ORICON NEWS、DIAMOND online、東洋経済オンライン、朝日新聞デジタル、朝日新聞デジタル

ご来館者数  
合計30,148人(20日間)

## 展示概要

『週刊朝日』の人気連載「司馬遼太郎シリーズ」の写真を13年にわたり担当し、作家・司馬遼太郎の作品世界を写真で表現し続けているカメラマン、小林 修氏が長年にわたり撮り重ねてきた膨大な写真群の中から『街道をゆく』をテーマに厳選した96点を展示しました。

『街道をゆく』は1971年から、司馬が亡くなる1996年まで、25年にわたり『週刊朝日』に連載された司馬のライフワークともいえる、紀行文学の名著です。日本人はどこから来たのか、日本はどのような歴史を辿ってきたのか、その文化の源流はどこにあるのか。司馬の歴史と風土を訪ね歩く旅は、国内は北海道から沖縄、さらに海を越えて、アイルランドやオランダ、モンゴルなどにまでおよびました。同作の中で、司馬の思索は時空を自在に行き交い、時代を鋭く見抜き、また『国盗り物語』や『竜馬がゆく』『燃えよ剣』

『坂の上の雲』など小説作品の世界とも有機的なつながりを見せます。司馬文学のエッセンスが凝縮されている『街道をゆく』は、小林氏の撮影でも大きな手掛かりとなっているといえます。

本展では、『街道をゆく』文庫版の表紙や、『週刊 司馬遼太郎』シリーズで多くの人に親しまれてきた作品の数々を「宗教」や「言葉」など、さまざまな切り口で再構成し、新たに制作した銀写真プリントで展覧しました。

## 実施レポート

「現代の風景の中で、司馬遼太郎の視点を見出す」という難題に挑んだ小林氏。司馬文学で語られる幕末や戦国時代の風景は現代に残っていませんが、小林氏は感覚を研ぎ澄ませ、現代の風景の中に司馬作品の世界が立ち上がる瞬間を、明快に、そして繊細にとらえました。そして本展では、作品の数々を『街道をゆく』『坂の上の雲』『宗教の世界－親鸞からザヴィエル』『風塵抄』『この国のかたち』『戦国の余韻－信長・秀吉・家康』という構成で、美しい大サイズの銀写真プリントで展示し、司馬文学の世界をいきいきとよみがえらせました。

司馬作品の愛読者の方から、「写真展を見て、司馬遼太郎の本を読んでみたくなった」という方まで幅広い層が熱心に時間をかけて鑑賞する姿で会場は静かな熱気に包まれ、「写真がリアルであたかもその写真の中に自分が入り込んだような気分だった」「『街道をゆく』の文章の場面に蘇りました」「本で見ていた写真のオリジナルの写真を見て、再度感動しました」等、さまざまな感動の声が寄せられました。

11月9日(土)、10日(日)に開催された小林氏と週刊朝日編集委員村井氏が「司馬遼太郎シリーズ」の撮影秘話や取材エピソードを語るトークショーには、合計316名が参加しました。「期待通り才能と熱意が感じられた」「小林氏の撮影にける思いや、苦労話が聞けて、貴重な内容だった」等イベントならではの交流の場となりました。また、展示会場では予定外ながら両氏によるギャラリートークも連日開催。両氏は、「読者や写真展に興味を持った方に来てお話できる貴重な機会」と、多忙な仕事の合間をぬって、18回のギャラリートークを実施しました。合計435名の来館者が参加し、写真展会場で写真を鑑賞しながら両氏から直接話を聞く時間を楽しみました。

また、会場では写真集「司馬遼太郎『街道をゆく』の視点」をはじめとする司馬関連の書籍の販売も行われ、大変好評でした。

## ご来館者様の声

- 今回初めて来ましたが、とても良かったので、また来たいと思います。
- 素敵な写真に癒されました。
- 友達に紹介したくてきました。たのしかったです。
- 臨場感あふれ素晴らしい作品ばかりで感動しました。
- 予想を上回る感動があった。
- 来たのは2回目だけど飽きなくて楽しかったです。
- どの展示も見応えのあるものでした。
- 今日たまたまギャラリートークを聞くことができ嬉しかった。撮った人のコンセプトや作品に関する思いが聞けるから！是非また行ってください。
- 司馬さんに同行したような気持ちになりました。
- 司馬さんの世界が感じられる、良い写真だと思いました。
- どの写真からも「あたたかみ」を感じました。
- 写真と文章から司馬さんの世界が伝わり、自分も行って写真を撮りたくなりました。



GFXシリーズ特別企画 ラージフォーマットデジタルカメラGFXで描く、カナダ新絶景を巡る旅

## 吉村和敏写真展「Du CANADA」

2019年5月10日～5月23日  
富士フィルムフォトサロン 東京  
スペース1・スペース2・ミニギャラリー

かつてカナダに暮らし、現地に精通している写真家 吉村和敏氏が、一年をかけて西から東、南から北へ大陸を踏破。数千本の桜の花が咲き誇るバンクーバー、ツンドラの真っ赤な紅葉で染まるユーコン、カウボーイ文化が息づくカルガリー、牧歌的な景観が広がる「赤毛のアン」の故郷プリンスエドワード島など、まだ日本ではあまり知られていない「カナダの今」を記録しました。

本展は、富士フィルムでカメラ・レンズの事業を展開する、光学・電子映像事業本部が企画し、吉村氏の撮影はすべて大型センサーを内蔵する最新のラージフォーマットデジタルカメラ(GFX50S・50R=5,000万画素、GFX100=1億画素センサー内蔵)が使用されました。その繊細な描写力と吉村氏の感性・技術によって、世界第2位の国土を誇る広大な国、カナダの空気感や光の艶、彩りをストレートに作品に置き換え、超光沢の大サイズ銀写真プリントで語りかける写真展です。

吉村氏にとって約2年ぶりとなる東京での大規模写真展とあって、同時出版された30年間の集大成となる写真集『Du CANADA』(日経ナショナルジオグラフィック社)他の出版物、そのまま部屋で飾れる額装されたオリジナルプリントも話題となり会場でも多数の方がご購入されました。

5月11日(土)には特設会場にて記念講演会「カナダ 新・絶景を巡る旅」を開催、220人を超えるファンが参加しカナダの美しい写真を堪能しました。また、5月10日(金)、12日(日)、18日(土)、19日(日)に展示会場内でギャラリートークを開催、4日間で計270人といずれも会場があふれんばかりの盛況ぶりでした。

## 展示作品点数

70点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
後援：カナダ観光局、日経ナショナルジオグラフィック社  
プリント制作：プロラボクリエイト

## 併催イベント

- ・吉村和敏講演会「カナダ 新・絶景を巡る旅」  
2019年5月11日(土) 14:00～15:30
- ・吉村和敏氏によるギャラリートーク  
2019年5月10日(金)・12日(日)・18日(土)・19日(日) 各日14:00～15:00



## 販売物

「ベルギーの最も美しい村 全踏破の旅」(講談社)／「イタリアの最も美しい村 全踏破の旅」(講談社)／「フランスの最も美しい村 全踏破の旅」(講談社)／「Moments on Earth」(日本カメラ社)／「PASTORAL」(日本カメラ社)／「BLUE MOMENT」(小学館)／「MAGIC HOUR」(小学館)／「MORNING LIGHT」(小学館)／「Du CANADA」(日経ナショナルジオグラフィック社)／「朝の光とともに、世界を巡る旅がはじまる」(フォトセレクトボックス)／「プリンス・エドワード島 七つの物語」(講談社)／額装プリント／フォトアクリル

## ご来館者数

合計20,862人(14日間)

## ご来館者様の声

プリントが美しく、見応えのある展示でした。

今回のような、気楽に素晴らしい写真に会える場であってください。

大好きです。綺麗な色で人びとの心を癒します。



## 写真展「放散虫(ほうさんちゅう)」

～小さなふしぎな生き物の形～

2019年8月9日～8月22日  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2

夏休み特別イベント

写真展  
ほうさんちゅう  
放散虫  
小さなふしぎな生き物の形

フジフィルム スクエア  
2019.8.9(金) ▶▶ 8.22(木) 10:00 ▶▶ 19:00  
(最終日は16:00まで・入館は終了10分前まで)

富士フィルムフォトサロン 大阪  
2019.9.13(金) ▶▶ 9.19(木) 10:00 ▶▶ 19:00  
(最終日は14:00まで・入館は終了10分前まで)

入場無料 / 会期中無休

電子顕微鏡写真

見る・学ぶ・触る・知る・聞く・読む 体験型!

主催:富士フィルム株式会社 企画:スタジオ・ポーキューバイン 後援:株式会社アリス館、港区教育委員会 協力:新潟大学、形の科学会、RC GEAR、マイクロワールドサービス、株式会社東京印書館

海をただようプランクトンの中に「放散虫」という生物があります。全長は最大でも数ミリ、単細胞の原生生物で、5億年前の地層の化石からも見つかっています。複雑で美しく、目を引くふしぎな形の「骨格」をしています。本展は、深度6000メートルを超える海底から発掘した中生代白亜紀の化石を「電子顕微鏡」で撮影した写真を紹介。世界的にも貴重な資料で、放散虫をテーマにした世界で初めて\*の写真展となりました。

会場には、放散虫の映像を見る、立体模型に触れる、骨格を顕微鏡で観察・撮影する、絵本を読むコーナーを作成。自由研究にも役立つクイズや切り紙ガイドなどを配布し、参加型写真展として多くのファミリーに楽しんでいただきました。子どもたちに自然がつくりあげた形やデザインの美しさ、歴史背景や科学の面白さにときめいてほしい、という願いを込めた写真展となりました。

\* 2019年 新潟大学 形の科学研究センター 松岡篤教授 調査による。

## 展示作品点数

28点

## クレジット

主催:富士フィルム株式会社  
後援:株式会社アリス館、港区教育委員会  
監修:新潟大学 形の科学研究センター 松岡篤教授  
協力:新潟大学、形の科学会、マイクロワールドサービス、株式会社東京印書館  
特別協力:RC GEAR、横山 隼  
企画:STUDIO PORCUPINE  
デザイン:三田村邦亮  
プリント制作:プロラポクリエイト

## 併催イベント

夏休み特別イベント【生物がつくる形のふしぎ】

- トークイベント
  - ①放散虫研究者・松岡篤先生のお話「科学者と考えよう-生物が作るふしぎな形-」  
2019年8月10日(土)・11日(日) 各日15:00～(約40分)
  - ②放散虫造形作家・横山隼氏のお話「生物の形と造形のおもしろさ」  
2019年8月9日(金)・11日(日)・13日(火)・15日(木)・17日(土)・19日(月)・21日(水)  
各日13:00～(約40分)
- 自由研究用リーフレット配布
  - ①クイズに参加「放散虫でサイエンス」 ②スケッチ・切り紙を体験「放散虫アート」  
2019年8月9日(金)～22日(木) 10:00～19:00 (最終日16:00まで)  
※会期中随時



## 販売物

- ・「ほうさんちゅう ちいさなふしぎな生きもののかたち」(アリス館、2019年)
- ・携帯ストラップ / ペンダント / フィギュア

## ご来館者数

合計28,560人(14日間)

## ご来館者様の声

分からないところもしっかり丁寧に教えてくれたから楽しく覚えることが出来た!!ありがとうございます!

見るだけでなく、体感できるから良かった。

子供たちも楽しめる展示品がたくさんあって楽しかった。

フジフィルム スクエア コンシェルジュ

## プレミアムプリント展 I・II ～わたしたちもトライしました～

Part I 2019年8月2日～8月15日

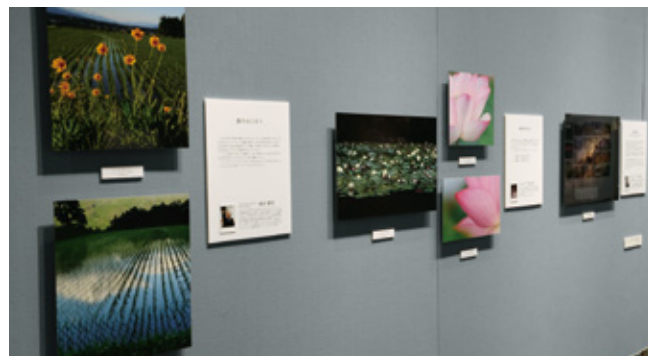
Part II 2020年1月17日～1月30日

富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー



写真歴史博物館のご説明や見学者のご案内をしたり、カメラの使い方を説明したり、写真のさまざまなご質問にお答えしている相談スタッフが「フジフィルム スクエア コンシェルジュ」です。元々は、富士フィルムの研究者や技術者だった写真好きのOB達。プライベートで撮影した写真を使い、自宅のパソコンから「プレミアムプリント」\*を注文。ひとりのユーザーとして使ってみた実感でその実力と魅力をお伝えする写真展です。身近な花や風景、お孫さんから、海外旅行、天体と十人十色の被写体のバリエーションとなり、関心を持たれたご来館者に自分の得意分野の写真を使ってご説明、やさしくご理解いただくことができました。

\*「フジフィルム プレミアムプリント」は、自宅のパソコンや店頭からのご注文を、ラボの専門プリントマイスターがプロの現場のニーズにも応える銀塩ならではのクオリティの作品プリントに仕上げてお届けするサービスです。裏打ち加工やパネル加工も一度に発注することができます。



## 展示作品点数

20点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社

プリント制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

## ご来館者数

合計43,513人(28日間)

## フジフィルム スクエア コンシェルジュの活動



写真歴史博物館のご説明



富士フィルムの写真製品のご紹介

## ご来館者様の声

解説が丁寧でとても良いです。

写真の歴史について詳しくわかりました。

丁寧に説明して下さって写真に興味を持ちました。また来たいです。

チェキの初代には大変お世話になりまして、思い出が沢山詰まっているのですが、まさか開発者の方にお会いできると思いませんでした!!!

## 角田明子写真展『サンタさんがいっぱい』

Merry Many Santa Clauses!

2019年12月13日 - 12月27日

富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2



「サンタクロースって本当にいるの?」という子どもたちの質問に答えるために、角田氏は、2011年夏にデンマークで開催された「世界サンタクロース会議」を訪れました。そこで出会ったのは、誰もが思い浮かべる赤と白の服に三角帽子の姿だけでなく、セーターを着た妖精、緑や黒い服を着た姿など、さまざまな恰好のサンタクロースたち。お国や地域によって呼び方や過ごし方なども実に多様な世界中のサンタクロースたちが一堂に集まり、等しくたくさんの人々に喜んでもらうために、クリスマスについて話し合う会議を行っていました。角田氏は、「子どもたちのために活動する彼らの魅力」を知り、その魅力をより多くの方々に伝えたいと思い、以降8年にわたりサンタクロースたちの写真を撮り続けています。

本展では、これまでに角田氏が撮影してきたデンマーク、ノルウェー、スウェーデンの作品を選りすぐり、2019年の夏にデンマークで撮影した「世界サンタクロース会議」の最新の作品を加えて展示しました。開催時期はクリスマスシーズンにあわせ、等身大のサンタクロースパネルを展示したり、生活雑貨ブランド「Afternoon Tea LIVING」のご協力のもと、ツリーなどのディスプレイをしたり、アジア唯一の「公認サンタクロース」パラダイス山元氏にもイベントにご登場いただくなど、温かみあふれる写真展となりました。「サンタさんの心温まる姿をご覧いただき、笑顔をお届けしたい」という角田氏の思いを込めた本展では、クリスマスに限らず、1年を通して人々に夢と喜びを与え続ける素敵な「サンタファミリー」たちの魅力をお楽しみいただきました。

また、東京ミッドタウンと連携したスタンプラリーも行い、子供から大人までたくさんの方で会場がにぎわいました。



## 展示作品点数

61点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
 後援：デンマーク大使館、ノルウェー大使館、スウェーデン大使館、港区教育委員会  
 協力：グリーンランド国際サンタクロース協会  
 デ스플레이協力：Afternoon Tea LIVING  
 デザイン：Paradigm  
 プリント制作：プロラボクリエイト

## 併催イベント

- ・ギャラリートーク
  - ①角田明子氏のお話「サンタさんを追いかけて」  
2019年12月13日(金) 16:00～(約30分)
  - ②角田明子氏・パラダイス山元氏のお話「クリスマスの楽しい過ごし方」  
2019年12月15日(日) 16:00～(約40分)
- ・フジフィルム スクエア コンシェルジュによる写真展ガイド
  - ①2019年12月13日(金)・14日(土)・15日(日)・27日(金) 各日13:30～(約20分)
  - ②2019年12月16日(月)～26日(木) 各日16:30～(約20分)

## 販売物

冊子「REGENBOGEN Christmas Issue」(GREEN/RED)

## ご来館者数

合計24,125人(15日間)

## ご来館者様の声

楽しかったです。ほっこりしました。

サンタクロースの展示は、どれも生き生きとした表情があり、引き込まれました。

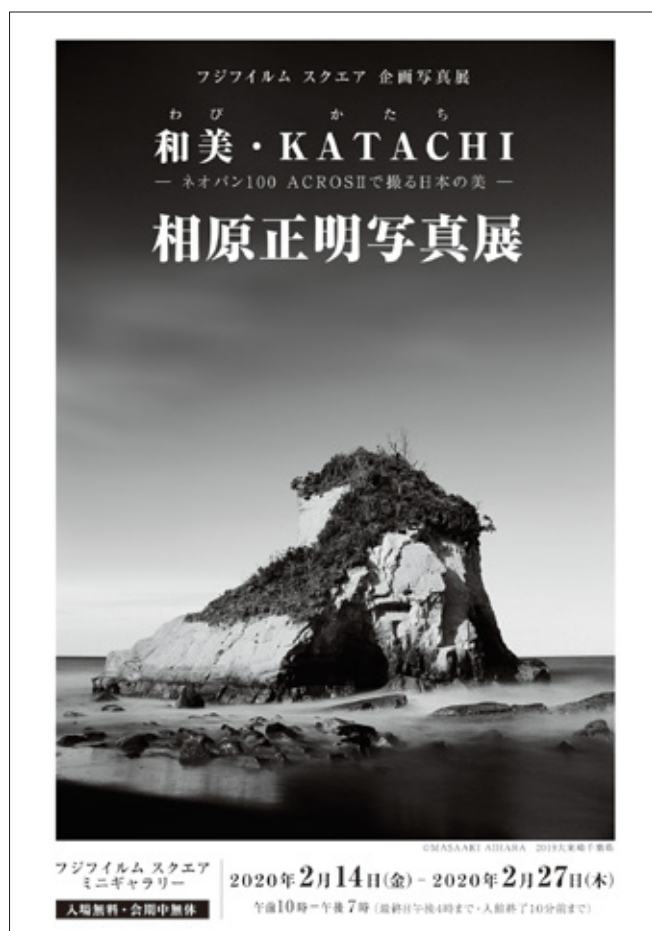
サンタさんがほんとうにいるのわかってよかったです。また、あいたいです。たのしかったです！

## 相原正明写真展「和美・KATACHI(わび・かたち)」

— ネオパン100 ACROS IIで撮る日本の美 —

2020年2月14日～2月27日

富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー



## 展示作品点数

16点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
 デザイン：株式会社企画  
 プリント制作：写真弘社

## 併催イベント

相原正明氏によるスライドトーク「モノクロフィルムで撮る日本の美しい風景」

- ①2020年2月14日(金) 18:00～19:00
- ②2020年2月16日(日) 14:00～15:00

## ご来館者数

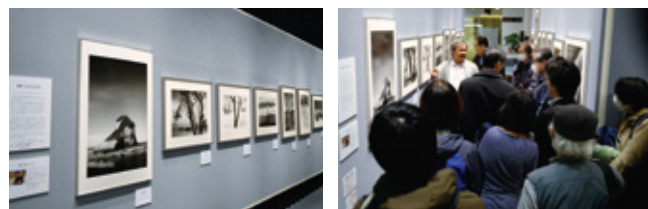
合計16,739人(14日間)

2019年秋、産声を上げた黑白フィルムネオパン100 ACROS II。今回、相原氏にお願いした撮影は、このフィルムの特性を試し、生かす日本国内の風景の美の表現です。

タスマニア親善大使も務める相原正明氏の写真といえば、オーストラリアの雄大な自然を捉えた迫力の総天然色ランドスケープをイメージしますが、日本国内での撮影テーマの一つは、「水に関わる風景」です。

相原氏は、千葉県大東崎、滋賀県琵琶湖、富山県日本海と、心に響くどこか懐かしい、日本ならではの美しい水の風景を訪ね、その美しさを構成している造形＝かたちに着目して撮影しました。そして、相原氏がどうしてもACROS IIで撮ってみたい水風景が「雪」の情景。しかし、あいにくの暖冬で、なかなか降雪、積雪がなく、青森まで足をのぼしてぎりぎりまで撮影していただいた作品が写真展に間に合いました。

相原氏からは、「フィルムならではの、濃厚で奥行きのある絵作りがとても楽しく、風景の奥行きを感じさせる遠景への消失感、フィルムでしか表現できないと感じました。最近では、フィルムシミュレーション(富士フィルムのデジタルカメラの機能)のACROSモードもよく使って撮影しますが、フィルムで撮影する緊張感とプリント仕上がりの質感には、また違った次元の高揚感があります。久しぶりに懐かしい友に再会したかのようです。」との感想をいただきました。



## ご来館者様の声

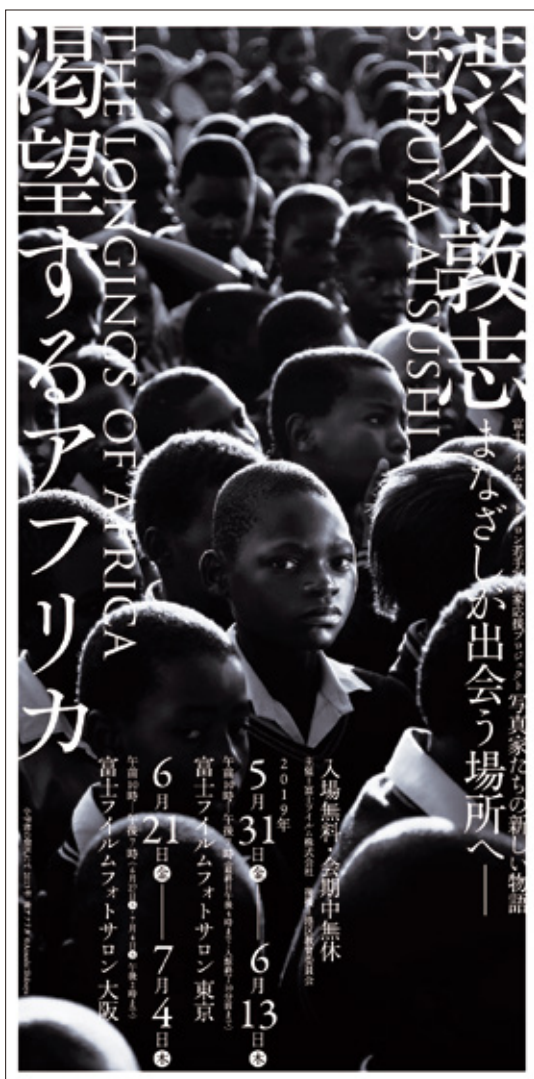
黑白フィルムはしっとりとした空気感や、シズル感が伝わってきます。

ACROSが復活して嬉しいです。これからもフィルムを作り続けてください。

デジタルのモノクロとフィルムの違いも作品で丁寧に説明していただき、ありがとうございました。

2019年5月31日～6月13日  
富士フィルムフォトサロン 東京  
スペース2

## 渋谷 敦志写真展「まなざしが出会う場所へ — 渴望するアフリカ —」



17歳の時に一冊の本に出会ったことがきっかけで報道写真家を志し、国境なき医師団との関わりから写真家への道を歩みだした渋谷氏。1999年から撮影を続けている「アフリカ」にフォーカスした、20年の集大成です。

渋谷氏はアフリカで、主に紛争や飢餓、難民や貧困の現場取材し、困難を生きる人びとから「おまえは何をしに来た」と問うまなざしを突きつけられてきました。なぜ撮るのか、写真で何ができるのか、葛藤し続け、何度も挫折しそうになりました。それでも、ファインダー越しに見つめ、見つめられ、まなざしが交差する場所から目をそらさないと決め、そこに「自分が写真を撮り続ける理由」の源を見出しています。渋谷氏の「この写真展が来館者にとって自分自身と世界や他者とのつながりを改めて想像する場となってほしい」という願いに応えるかのように、熱心に鑑賞する来館者の姿は途切れることがありませんでした。



### 展示作品点数

61点

### クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
後援：港区教育委員会  
デザイン：文京図案室、三木俊一  
プリント制作：プロラボクリエイト

### 併催イベント

渋谷敦志氏によるギャラリートーク  
①2019年5月31日(金) 17:00～  
②2019年6月1日(土) 15:00～ ゲスト：作家 真山 仁氏  
③2019年6月8日(土) 15:00～ ゲスト：作家 真山 仁氏  
④2019年6月9日(日) 15:00～ ゲスト：文化人類学者・批評家・東京外国語大学大学院教授 今福龍太氏

※各回ともに約40分

### 販売物

- ・『まなざしが出会う場所へ—越境する写真家として生きる』(新泉社)
- ・『みんな大切 世界人権宣言の絵本』(岩崎書店)
- ・『回帰するブラジル』(瀬戸内人)
- ・『国境の医療者』(新泉社)

### ご来館者数

合計18,911人(14日間)

### ご来館者様の声

このような写真展をまた開催してください。

アフリカの現実が理解できました。写真に真実を感じるのでこういう企画を沢山していただきたい。

白黒の良さを改めて感じた。

## 田頭 真理子写真展「夢えっと Onomichi donkey paradise」

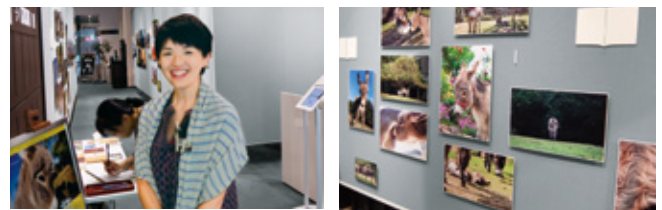
2019年8月16日ー8月29日  
富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー

8年前、田頭氏の実家の父親がいきなりロバを飼い始めます。その4年後雄ロバが増え、2年前にはその2頭に子供が生まれます。人間の家族となんら変わらない、むしろもっと深い愛があるようにも見えるロバ家族の営み。都会の日常からは想像もできないような暮らし、信じられないような光景を、やさしくてちょっと滑稽なフォトストーリーとして展開した作品。

ロバを主人公に、実家のある尾道の風景の中で温かく流れる空気感を感じていただく写真展を、ミニギャラリーという14mの限られた壁面でどう構成するか、写真の中吊りにしたり、キャプションの見せ方に工夫をこらしたり、新しい展示のチャレンジとなりました。

用意した「ポストカードブック」も会場にて完売。

来館者は、ロバの表情やロバの子供の可愛らしさに、思わず足を止めて見入っていました。



## 展示作品点数

39点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
 後援：(一社)尾道市観光協会、尾道ロバ牧場  
 デザイン：stooop Ltd. 池田龍平  
 プリント制作：プロラボクリエイト

## 販売物

ポストカードブック10枚入り

## ご来館者数

合計24,439人(14日間)

## ご来館者様の声

かわいいロバの親子の写真で、心が和みました。

いままでに見たことのない展示の仕方がユニークでした。

尾道らしいゆっくりとした時間を感じることができ、癒されました。

## 千葉 格 報道写真展「BACK-GROUND」

文・細江克弥

2020年1月24日～2月6日  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2

富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト【写真家たちの新しい物語】

報道写真展

アスリートの情動は、その背中に。

千葉 格 = 写真  
Photo by TAKU CHIBA  
細江克弥 = 文  
Text by KATSUKI HOE

**BACK-GROUND**

2020 1/24 (fri) - 2/6 (thu)  
10:00 - 19:00 (最終日16:00まで / 入場終了10分前まで)  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2  
主催：富士フィルム株式会社 後援：港区教育委員会 入場無料 / 会期中無休

ドイツを拠点に2010年から7年にわたり、サッカーなどのスポーツ・アスリートの撮影を続けてきた千葉氏の初個展。ドイツ国内サッカーリーグ「ブンデスリーガ」の試合などの膨大な写真から「背中」にフォーカス、世界トップレベルのサッカー選手の背中が語る躍動や情熱、それを支える熱狂的なファンの迫力を表現。千葉氏の写真1点1点に添えられたスポーツライター・細江氏の綴る「ストーリー」と共に楽しんでいただく報道展は、若い世代を中心に多くの来館者の共感を呼びました。

「表情がはっきりと写し出されて輝く写真は沢山あるけれども、そこから伝わる感情は限定される。表情が見えない背中だからこそ、見た人それぞれが思い思いに『想像』できる。写真にまつわる物語に想像をめぐらせ、自由な写真の楽しみ方を味わっていただきたい」との思いで構成。サッカーファンのみならず多くの方が、感銘を受けた写真展になりました。

## 展示作品点数

写真：29点 文章パネル：20点

## クレジット

主催：富士フィルム株式会社  
後援：港区教育委員会  
デザイン：三田村邦亮  
プリント制作：プロラボクリエイト

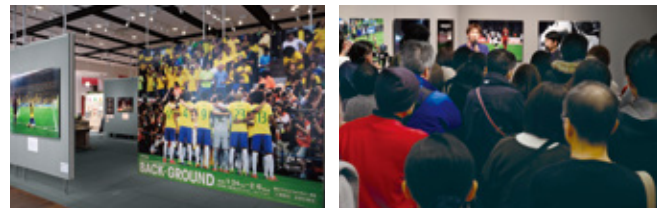
## 併催イベント

ギャラリートーク

- ①2020年1月24日(金) 18:00～ 千葉格氏
  - ②2020年1月26日(日) 14:00～ 千葉格氏・細江克弥氏
  - ③2020年1月31日(金) 18:00～ 千葉格氏
  - ④2020年2月1日(土) 14:00～ 千葉格氏・細江克弥氏
- ※各回ともに約40分

## ご来館者数

合計16,312人(14日間)



## ご来館者様の声

やはり背中には多くを語りますね。

一枚一枚にストーリーを感じました。

大迫力で胸が熱くなりました。

## 第7回アフリカ開発会議(TICAD7)開催記念写真展 「アフリカ、胎動する大陸」

2019年8月23日～9月5日  
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1



### 出展写真家

ドルテ・ヴェルナー、渡辺貞夫

### 展示作品点数

47点

### クレジット

主催:世界銀行グループ  
後援:日本経済新聞社  
協賛:富士フィルム株式会社  
デザイン:富沢祐次  
プリント制作:プロラボクリエイト

### 併催イベント

ドルテ・ヴェルナー氏によるギャラリートーク  
2019年8月24日(土) 14:00～(約40分)

### ご来館者数

合計19,377人(14日間)

2019年8月28日(水)～30日(金)横浜で、第7回アフリカ開発会議(TICAD7)が開催されました。TICADはアフリカが直面する課題や、アフリカ諸国の意見と懸念を共有し、議論する国際的な会議です。

世界銀行は、日本政府、国連開発計画(UNDP)、国連アフリカ開発委員会(AUC)とともに、TICADを共催しています。今回日本での開催にあたり、写真を通じてより多くの日本に暮らす人にTICADとアフリカのことに関心を持ってもらうため写真展を開催しました。

本展は、ドルテ・ヴェルナー氏と、日本のジャズレジェンド渡辺貞夫氏の2部構成の展示でした。

ドルテ・ヴェルナー氏は、デンマーク出身の世界銀行職員で、アフリカはじめ世界各国の融資プロジェクトや調査分析業務に従事している主任農業エコノミストであると同時に、受賞歴を多数もつ写真家でもあります。各国の老若男女の日常の姿を光と色彩豊かに捕らえた写真を通じて、現在のアフリカを伝えました。

渡辺貞夫氏は、日本を代表するトップミュージシャンとして、ジャズの枠に留まらない独自のスタイルで世界を舞台に活躍されていますが、写真家としても20回を超える写真展、6冊の写真集、日経トレンディ 広告賞最優秀賞などの受賞歴など、長年活躍されてきました。1992年には、富士フォトサロン(銀座)で渡辺貞夫写真展 La festa Mille Miglia～ミッレ・ミア～を開催し、現地に密着したアフリカの自然と人を展示されました。

写真展初日、2人の出展作家はじめ、TICAD関係者が出席されるオープニングレセプションが開催されました。また、作品は、TICAD開催に先立ち、会場となる横浜の「みなとみらいギャラリー」でも展示され、会議のPRに貢献しました。写真展の開催機会の提供を通じて、国際社会の課題解決の活動に貢献できることは、写真の持つ大きな可能性と感じています。



### ご来館者様の声

アフリカに関心をもつきっかけになりました。

来て良かった。友だちに勧めたい。

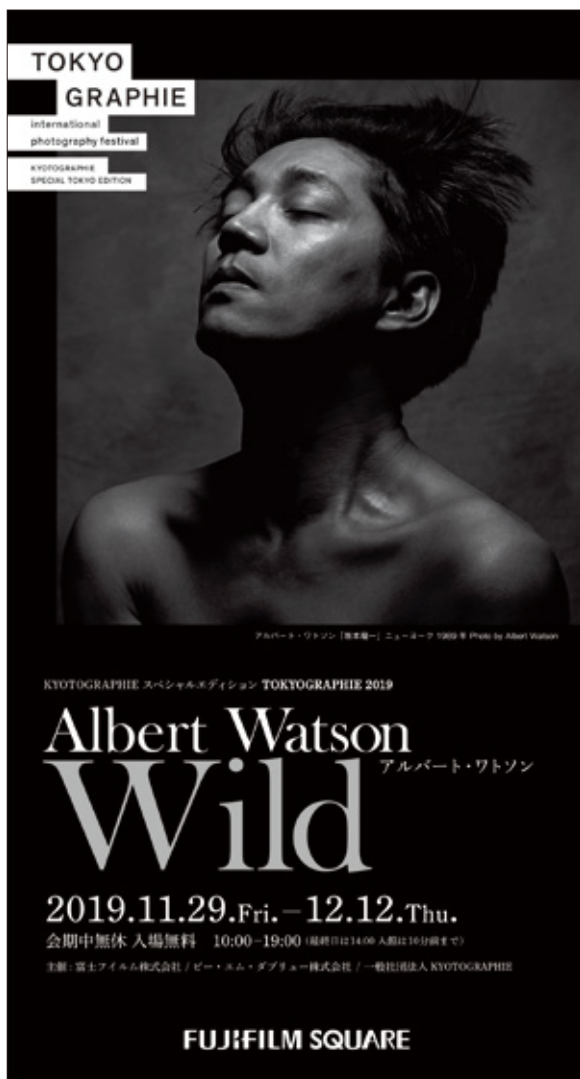
素晴らしい作品で、感動しました。



KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 SPECIAL EDITION

## TOKYOGRAPHIE 2019

■ アルバート・ワトソン「Wild」 ■ 関 健作「2:16.22 —その記録の向こう側—」

2019年11月29日 - 12月12日  
富士フィルムフォトサロン 東京  
スペース1・スペース2・ミニギャラリー

## 出展写真家

アルバート・ワトソン、関 健作

## 展示作品点数

アルバート・ワトソン:36点  
関 健作:44点

## クレジット

主催:[アルバート・ワトソン展]富士フィルム株式会社、ビー・エム・ダブリュー株式会社、  
一般社団法人 KYOTOGRAPHIE

[関 健作展]富士フィルム株式会社、一般社団法人 KYOTOGRAPHIE

協力:東京ミッドタウン

企画:一般社団法人 KYOTOGRAPHIE

展示デザイン:[アルバート・ワトソン展]ナノナグラフィックス

プリント制作:プロラボクリエイティブ

## 併催イベント

- ・アルバート・ワトソン トークイベント「Wild」  
2019年11月30日(土) 14:00~15:00
- ・関 健作×為末 大 トークイベント「アスリートの記録と記憶」  
2019年11月30日(土) 10:30~11:30

## ご来館者数

合計16,844人(14日間)

「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」は、フランス・アルで毎年約3ヵ月間にわたって開催されるヨーロッパ最大級の伝統ある写真祭「アルル国際フォトフェスティバル」のようなアートのプラットフォームを日本につくるべく、2013年より京都を舞台に開催されている国際的な写真祭です。第7回となった2019年度も、当社は特別協賛企業として参加しました。

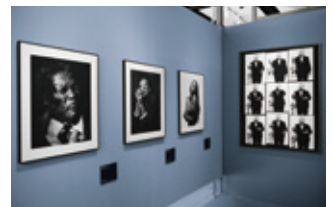
そのKYOTOGRAPHIEの東京でのポップアップイベント“TOKYO GRAPHIE 2019”の一部として、フジフィルム スクエアは、アルバート・ワトソン・関 健作両氏の写真展を開催しました。

## ■ アルバート・ワトソン写真展「Wild」

「ポートレートの巨匠」と名高いスコットランドの写真家アルバート・ワトソン氏。時代の寵児たちのポートレートを多数撮影、VOGUEなど世界各国の著名誌の表紙を100以上手がけるなど、50年以上第一線で活躍。同氏の日本初の回顧展の巡回展で、アルフレッド・ヒッチコック、デヴィッド・ボウイ、ミック・ジャガー、スティーブ・ジョブズなどのポートレートや風景写真などを展示。写真展のメインビジュアルとして使用した、坂本龍一のアルバム『BEAUTY』のジャケットのアザークットは、被写体の持つ力強さや生命力を最大限に引き出し、ヴィジュアルとしての美しさに昇華し作品に収める氏ならではの作品として注目を集めました。

## ■ 関 健作「2:16.22 —その記録の向こう側—」

「走る」という行為に人生をかけ、自分の記録と対峙し続けた5人のアスリートのインタビューを元に、その記録の向こう側で彼らが見たものを視覚化しようと試みた作品。当社はKYOTOGRAPHIEで開催される新進写真作家の作品発表の場「KYOTOGRAPHIE ポートフォリオレビュー」の今年度出展作品の中から最も優れた1作品として、本作品に対しFUJIFILM AWARDを授与させていただき写真展を開催しました。



## ご来館者様の声

坂本龍一さんのポートレートがかっこよかったです。ミック・ジャガーの写真も、画像編集ソフトのない時代によく撮れたなと思いました。

対談を聞かせていただき、写真への見方が変わりました。来て良かったです。

素晴らしい展示でした。

日本の近代写真を支えてしまった?! 波乱万丈の男がいた

## 「明治に生きた“写真大尽” 鹿島清兵衛 物語」

2019年6月1日～8月31日  
写真歴史博物館

## 展示作品点数

35点

## クレジット

主催:富士フィルム株式会社  
後援:港区教育委員会  
監修:井桜直美(古写真研究家)  
協力:一般財団法人 日本カメラ財団  
企画:フォトクラシック  
デザイン:脇野直人  
プリント制作:プロラボクリエイト

## 併催イベント

井桜直美氏によるギャラリートーク  
①2019年6月29日(土) 14:00～ / 16:00～  
②2019年7月20日(土) 14:00～ / 16:00～  
③2019年8月10日(土) 14:00～ / 16:00～  
※各回ともに約30分

## 販売物

- ・『セピア色の肖像 幕末明治名刺判写真コレクション』(井桜直美著)
- ・『明治を築いた人々』(明治150年記念 幕末・明治の古写真展)
- ・『建物にみる江戸東京』(明治150年記念 幕末・明治の古写真展)

## 主要メディア掲載

朝日新聞夕刊(東京、6月25日)夕刊、Weeklyプレイボーイ、歴史人(7月号)、旅の手帖(7月号)、infoseekニュース、毎日新聞、朝日新聞デジタル、Yahoo!ロコ ほか雑誌、ウェブサイトなど多数

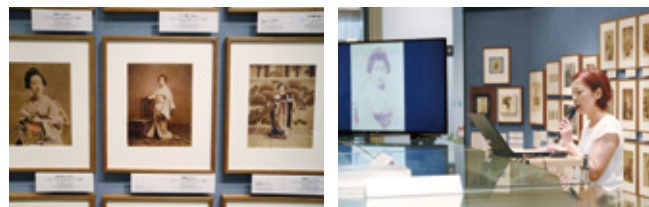
鹿島清兵衛は、明治中期、裕福な環境に恵まれ、その半生と財産を写真に注ぎ込み、“写真大尽”として日本の写真界に大きく貢献した写真師です。本展は、日本で初めて、その鹿島の生涯と功績を紹介するものとなりました。

東京にあった日本有数の酒問屋、鹿島屋の八代目鹿島清兵衛。先代が持っていた写真機を蔵で偶然見つけたのがきっかけで、写真にのめり込み、築地乾板製造所の設立や日本写真会の結成、大日本写真品評会の創立などに出資し、回り舞台やアーク灯が設備された豪華な写真館「玄鹿館」を開設するなど、自らの存在を数年間で世間に知らしめました。

特別注文した大型写真機で撮影した巨大写真やX線写真、マグネシウム閃光を使った夜間撮影など、当時としては前代未聞の写真制作に挑み、日本の写真界の発展に貢献しましたが、破天荒な大盤振る舞いもそのころの話題となりました。

鹿島は、明治23年に、新橋「玉の家」の当時はまだ半玉だったぼん太をポスターのモデルとして起用し、それが縁で、後の人生を共に過ごしました。明治29年には、乱費がもとで鹿島家と離縁され、以降、写真館の閉鎖や爆発事故による指の切断など、波乱に満ちた晩年を送ったといわれています。

本展では、鹿島清兵衛の代表作である宮内省に献上された「富士」(複製)や、九代目市川團十郎が演じる歌舞伎十八番「暫」の舞台写真(複製)をはじめ、名妓と謳われたぼん太や、鹿島の弟・清三郎の愛妾おえんたちの妖艶な姿、絹布に焼き付けられた写真応用美術品などを一堂に展示しました。単なる道楽を超え、日本の写真界に偉大な功績を残した鹿島清兵衛の魅力に迫る貴重な機会となりました。



## ご来館者数

合計150,739人(92日間)

## ご来館者様の声

鹿島清兵衛のコンシェルジュツアーがとても面白かった。友だちに勧めたいです。

昔の写真を見ることが出来て良かったです。大学などで所蔵されていることもわかり、参考になりました。

明治初期の写真を現代の技術でプリントし直したものに感動した。

写真の錬金術 二人の表現者

## 「覚醒する写真たち」今道子 + 佐藤時啓

Part1 2019年9月1日-10月29日  
Part2 2019年10月30日-12月27日  
写真歴史博物館

写真の錬金術 二人の表現者



今道子「蘇生するものたち」  
2019 9.1 [SUN] - 10.29 [TUE]  
Part 1

Part 2  
佐藤時啓「呼吸する光たち」  
2019 10.30 [WED] - 12.27 [FRI]



10:00 - 19:00 (入場は開館10分前まで)  
会期中無休・入場無料  
FUJIFILM SQUARE

「覚醒する写真たち」今道子 + 佐藤時啓

独自の写真文化が形成されてきた日本で、現代美術でも写真を使った作品が注目を集めるようになった1980年代後半、異色の写真家として登場した今道子氏と佐藤時啓氏。本展では、現在も国内外で広く活躍し、美術と写真の両方面から高く評価されている両氏を二部構成で特集し、それぞれ初期から現在までの作品を集約して展示しました。

今氏は、版画を学んだのち写真に転じ、1985年から本格的な作家活動に入りました。野菜や魚、果物といった食物、帽子やハイヒールなどの素材を緻密に組み合わせたオブジェを制作し、自ら撮影して印画紙に焼き付ける独自のスタイルは他に類を見ません。

佐藤氏は、彫刻を学んだのち、1980年代後半に写真に転じました。作家自身がペンライトや鏡を持ってカメラの前で動き回り、長時間露光でその光の痕跡や空間をとらえた代表作〈光-呼吸〉のシリーズをはじめ、その創作活動は一貫して写真の原理を追究しています。

二人に共通しているのは、写真以外の美術から写真表現に行き着いたこと、三次元のオブジェや身体的運動を印画紙という二次元に完結させていること、写真芸術として認められるプリント作品を最終形態としていることです。両者の表現は、ともに限りなくアートに近い写真作品でありながら、反比例するように写真の原理や本質に近づいていきます。独自の方法で写真の真髄を精製していく創作行為は、まさに「写真の錬金術」といべきものです。

デジタル写真が圧倒的な位置を占め、写真表現がますます複雑化、多様化している今日、二人の写真作品から「写真とは何か」を再考する試みとなりました。

## 展示作品点数

Part1:25点 Part2:18点

## クレジット

主催:富士フイルム株式会社  
後援:港区教育委員会  
協力:PGI  
企画:フォトラシック デザイン:脇野直人  
プリント制作:写真弘社(Part2)

## 併催イベント

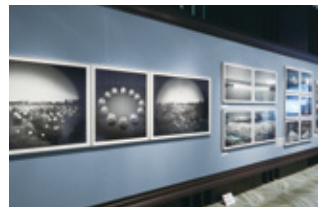
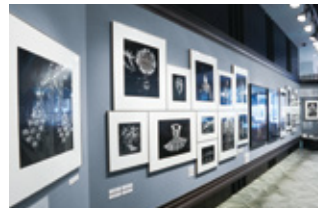
- 今道子氏によるギャラリートーク  
2019年9月28日(土) 14:00~ / 16:00~  
2019年10月19日(土) 14:00~ / 16:00~
- 佐藤時啓氏によるギャラリートーク  
2019年11月16日(土) 14:00~ / 16:00~  
2019年12月14日(土) 14:00~ / 16:00~  
※各回ともに約30分

## 販売物

- Part1期間  
『Michiko Kon』(光琳社、1997年) / 『KON BOX』(P.G.I.ナツラエリ・プレス、1996年)
- Part2期間  
『光-呼吸』(ニコールクラブ、1997年) / 『佐藤時啓 光-呼吸 そこにいる、そこにはいない』(東京都写真美術館、2014年)

## 主要メディア掲載

東京新聞(8月29日)、THE JAPAN TIMES(Osaka)、THE JAPAN TIMES(Tokyo)、プレーン、朝日新聞デジタル&M、infoseekニュース、47NEWS、毎日新聞、Yahoo! ニュース、Yahoo!ロコほか雑誌、ウェブサイトなど多数



## ご来館者数

合計176,621人(118日間)

## ご来館者様の声

初めて来ましたが、写真の芸術性を感じた!

覚醒...納得!

写真の美しさを改めて感じました。

## 「日本の美を追い求めた写真家・岩宮武二 京のいろとかたち」

2020年1月4日～2月27日\*1  
写真歴史博物館

## 展示作品点数

28点

## クレジット

主催：富士フイルム株式会社  
 後援：港区教育委員会  
 監修：榎並悦子、近藤宏樹  
 特別協力：岩宮 彩  
 協力：光村推古書院株式会社  
 企画：フォトクラシック デザイン：脇野直人  
 プリント制作：プロラボクリエイト

## 併催イベント

ギャラリートーク\*2

- ①2020年1月25日(土) 14:00～ / 16:00～ 榎並悦子氏  
 ②2020年2月15日(土) 14:00～ / 16:00～ 榎並悦子氏、近藤宏樹氏  
 ※ 各回ともに約30分

## 販売物

「美とかたち 岩宮武二の仕事」(光村推古書院、2018年)

## 主要メディア掲載

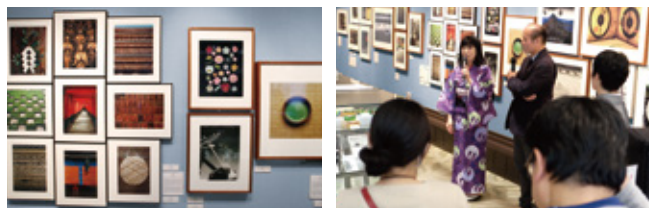
日本経済新聞(東京、12月26日/大阪、12月26日)、毎日新聞夕刊(東京、1月6日)、THE JAPAN TIMES(Tokyo)、THE JAPAN TIMES(Osaka)、毎日新聞、朝日新聞デジタル&M、infoseekニュース、47NEWS、goo ニュース、Yahoo! ニュース ほか雑誌、ウェブサイトなど多数

\*1 2020年1月4日(土)～3月31日(火)の会期が新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館により2月27日(木)までで中断しました。なお、「緊急事態宣言」の解除と「自粛要請」の緩和を受けフジフイルムスクエアが再開した2020年6月9日(火)より6月30日(火)までの期間も開催しました。 \*2 2020年3月7日(土)に予定していた近藤宏樹氏によるギャラリートークは臨時休館のため中止しました。

岩宮武二は、生涯を通じて大阪を拠点に活動した写真家です。関西随一と謳われ、広告写真家として、また写真作家として数多くの作品を残し、森山大道らをはじめとする後進の写真家に大きな影響を与えました。

岩宮が写真界にデビューしたきっかけは、1954年、富士フォトコンテストのカラー部門で《マヌカン》が一等を受賞したことでした。その後、写真家としての活動を本格化し、1955年に岩宮フォトスを設立。佐渡や東照宮、京都、琉球といった日本の歴史や風土、人々の暮らしにモチーフを求め、精力的に作品を発表していきます。被写体を叙情的にとらえながらも、造形的に画面を構成した端正な作品は、他の写真家にも刺激を与え、その眼差しはアメリカや、のちにヨーロッパ、アジアの仏像へと向けられていきました。

本展は、岩宮武二の生誕100年を記念し、代表作である京都のシリーズから「京のいろとかたち」をテーマに厳選した28点を展示しました。戦後まもなく訪ねた京都との鮮烈な出会いから30年以上の長きにわたり、そこに通いつめ、風景や古社寺、街並みの中に京都特有の美をいち早く発見した岩宮は、日本文化の美の真髄を探るがごとく、その色やかたちを徹底的に撮り重ねました。季節を彩る色、その訪れを祝う色、意匠に極められたかたち、祈りから生まれたかたち。京都で培われてきた文化や知恵を映すさまざまな色とかたちは、岩宮にとって日本の美そのものでした。日本の美と伝統を象徴する岩宮の視覚的表現を通し、現代において失われた美、変わらぬ美を、再び見つめる写真展となりました。



## ご来館者数

合計66,641人(55日間)  
 ※ 2020年1月4日～2月27日の合計

## ご来館者様の声

これからのこのような素晴らしい作品を紹介していただくことを期待します。

岩宮さんのことは、今まで存じ上げなかったですが、想像以上に素晴らしいです。

日本の素敵なおとこを再発見しました。

■2019年度開催したおもな見学会およびレセプションの様子をレポートします。

2019年8月23日(金) 第7回アフリカ開発会議(TICAD7)開催記念写真展「アフリカ、胎動する大陸※」オープニングレセプション ※20ページ参照

本展は、8月28日(水)～8月30日(金)に横浜で開催されたアフリカ開発会議の活動を広く一般へ告知し、理解を広げるために、世界銀行グループが主催する写真展を当社が協賛しました。写真展初日の8月23日(金)に世界銀行グループが主催する、オープニングレセプションを当社で開催しました。外務省事務次官、経済産業省官房長をはじめ、政府・省庁、国際機関、企業、在京アフリカ大使館から計60名がご出席され、世界銀行副総裁ハフェズ・ガナム氏のビデオメッセージに続き、財務副大臣 上野賢一郎氏、出展作家の日本のジャズレジェンド 渡辺貞夫氏および世界銀行の主任農業エコノミストドルテ・ヴェルナー氏が登壇されご挨拶されました。当社からも、代表取締役社長 COOの助野健児以下20名が参加しました。写真を通じてアフリカの魅力を共有し、開発の現状とその協力の重要性を確認する機会となりました。



世界銀行副総裁ハフェズ・ガナム氏のビデオメッセージ



当日のご登壇者と全体の進行をご担当された世界銀行駐日特別代表 宮崎成人氏(左端)の記念撮影



財務副大臣 上野賢一郎氏によるご挨拶



日本のジャズレジェンド・写真家 渡辺貞夫氏によるご挨拶



世界銀行の主任農業エコノミスト・写真家ドルテ・ヴェルナー氏によるご挨拶



当社代表取締役社長・COO 助野健児による挨拶

2019年11月19日(火) 東京都写真美術館企業交流会における見学会

東京都写真美術館の支援協議会会員企業の文化活動の紹介と見学および、会員企業相互の交流を目的とした企業交流会で、フジフィルム スクエアの見学会が開催され、支援協議会会員および東京都写真美術館関係者の皆様合計56名が参加されました。見学会では「小林 修 写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代」会場で小林修氏によるギャラリートーク、写真歴史博物館でフジフィルム スクエア コンシェルジュによる解説ツアー、タッチ フジフィルムコーナーとヘルスケアショップで担当者による商品紹介を体験いただきました。交流会では、東京都写真美術館 館長伊東信一郎氏、支援協議会理事長 荻谷道郎氏がご挨拶され、当社執行役員(当時)宮崎剛が挨拶・乾杯しました。参加者からは、「写真展は見応えがあり、ギャラリートークで写真家から直接話が聞けて贅沢な時間だった」「写真展から、アンティークカメラの展示・解説、製品の展示、化粧品の販売まで、幅広く楽しい魅力的な施設だ」という声をいただきました。



東京都写真美術館 館長 伊東信一郎氏によるご挨拶



「小林 修 写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代」会場 小林修氏によるギャラリートーク



写真歴史博物館  
フジフィルム スクエア コンシェルジュによるツアー



東京都写真美術館 支援協議会理事長 荻谷 道郎氏によるご挨拶



タッチ フジフィルムコーナー



ヘルスケアショップ



当社執行役員(当時)宮崎剛による挨拶・乾杯

2020年1月21日(火) 企業メセナ協議会见学会・賀詞交歓会

公益社団法人 企業メセナ協議会が、協議会会員を中心とした新年のご挨拶、および交流・情報共有の機会として、賀詞交歓会および見学会をフジフィルム スクエアで開催されました。見学会では、会員および協議会関係者81名の皆様に富士フィルムフォトサロンで出展者のギャラリートーク、写真歴史博物館でフジフィルム スクエア コンシェルジュによるツアー、タッチ フジフィルムコーナー、ヘルスケアショップで担当者による商品紹介を体験いただきました。賀詞交歓会に97名が参加され、企業メセナ協議会会長 高嶋達佳氏、副会長 渡辺雅隆氏、理事長 尾崎元規氏が登壇され、ご挨拶されました。当社からは代表取締役社長・COO 助野健児が挨拶しました。



井村淳 写真展 「ALIVE ~GREAT HORIZON~」  
井村淳氏によるギャラリートーク



横田 國平写真展「雪里」  
横田 國平氏によるギャラリートーク



写真歴史博物館  
フジフィルム スクエア コンシェルジュによるツアー



タッチ フジフィルムコーナー



ヘルスケアショップ



公益社団法人 企業メセナ協議会会長  
高嶋達佳氏によるご挨拶



公益社団法人 企業メセナ協議会副会長  
渡辺雅隆氏によるご挨拶



公益社団法人 企業メセナ協議会理事長  
尾崎元規氏によるご挨拶



当社代表取締役社長・COO  
助野健児による挨拶

本見学会の様子が企業メセナ協議会ホームページ「企業メセナ訪問記」に掲載されました。

〈本見学会取材した企業メセナ協議会のメセナライター石川聡子様によるコメント(本見学会のレポートから抜粋)〉



前から存在は知っていたが、なかなか行く機会がなかったフジフィルム スクエア。今回取材をきっかけにようやく足を踏み入れることができたが、想像以上に館内のコンテンツが充実していることに驚いた。写真の展示ひとつとっても先述した分に限らず、写真歴史博物館の左隣には「ギャラリー-X」※もあり、館内のスペースとスペースの隙間を埋めるようにちょっと空いたスペースにもコンシェルジュの方々が撮影した写真が展示されていたりと、とにかく一度でいろんな写真コンテンツに触れることができ、化粧品などのショッピングも楽しむことができるという、なんともお得な施設ではないかというのが率直な感想だ。

※「ギャラリー-X」は、2020年6月12日(金)より、新たに「富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3」と名称を変更して、当社主催の企画展を中心に展示しています。

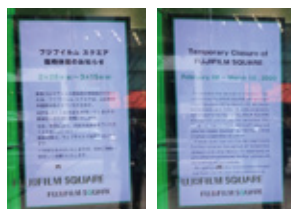
## 新型コロナウイルス感染症への対応

2020年に入り、新型コロナウイルスの感染が拡大しました。フジフィルム スクエアは新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から2月28日から6月8日まで臨時休館しました。6月8日までの臨時休館期間合計で2本の写真展が中断、35本が延期になり、併設イベントも68件が延期となりました。そのうち、2019年度(2020年3月31日まで)としては、中断した写真展は2本、延期となった写真展は5本、イベントは24件でした。

感染症による臨時休館は開館以来初めての事態で、ご来館者・出展者の皆様はじめ従業員の安全・健康の確保、休館に伴う様々な調整、出展者の皆様へのご協力の要請など文化施設としての危機管理の重要性を改めて根底から見直す機会となりました。再開後も慎重な対応を心がけて運営しています。



入口の臨時休館の告知



サインージ 日本語表記/英語表記

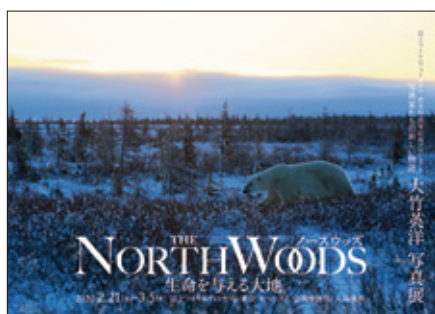


臨時休館をお知らせするフジフィルム スクエア公式ホームページ

### ■ 中断、延期となった写真展・イベント(2019年度) ※2020年3月末までの期間に開催を予定していた写真展・イベントを記載

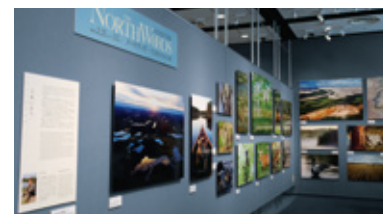
写真展名	予定期間	中止したイベント	対応	写真展名	予定期間	中止したイベント	対応
「日本の美を求めた写真家・岩宮武二 京のいろとかたち」	2020年 1月4日(土) ～3月31日(火)	近藤宏樹氏によるギャラリートーク 2020年3月7日(土) 14:00～/16:00～	2月27日(木)までで中断。6月9日(火)～6月30日(火)開催	「第8回 クラカメ雑談会 写真展」ネオパン100 ACROS II作品展	2020年 2月28日(金) ～3月12日(木)	・なし	2020年6月26日(金)～7月9日(木)開催
大竹英洋写真展「ノースウッズ-生命を与える大地-」	2020年 2月21日(金) ～3月5日(木)	・大竹英洋氏によるオープニング記念スライドトーク 2020年2月21日(金)17:30～(約60分) ・大竹英洋氏によるギャラリートーク 2020年2月22日(土)～24日(月・祝)、 2月28日(金)～3月1日(日) 各日2回開催11:30～/14:30～	2月27日(木)までで中断。2020年度に開催予定	第41回よみうり写真大賞入賞作品発表展	2020年 3月6日(金) ～3月12日(木)	・読売写真大賞事務局長 小浜誓氏によるギャラリートーク 2020年3月7日(土)・8日(日) 各日13:00～	第42回と同時間帯開催予定
高橋康資写真展「東京ジャンクション」	2020年 2月21日(金) ～2月27日(木)	・高橋康資氏によるギャラリートーク 2020年2月22日(土)・23日(日) 各日14:00～(約30分)	—	四季会写真展「四季彩美50周年」	2020年 3月6日(金) ～3月12日(木)	・ギャラリートーク 2020年3月6日(金)川隅 功氏 2020年3月7日(土)前田 晃氏と川隅 功氏 2020年3月8日(日)前田 晃氏 各日15:00～(約30分)	2020年度開催予定
第15回写団・渡良瀬写真展「渡良瀬四季彩」	2020年 2月28日(金) ～3月5日(木)	・ギャラリートーク 2020年2月28日(金) 14:00～(約30分)	2020年度に開催予定	田沼武能写真展「わが心の東京」	2020年 3月13日(金) ～4月1日(水)	・写真展記念トークイベント 田沼武能「わが心の東京」を語る 2020年3月15日(日) 13:00～14:00	2020年6月9日(火)～7月9日(木)開催

### 【写真家たちの新しい物語】大竹英洋写真展「ノースウッズ-生命を与える大地-」



ノースウッズとは北米の北方林、アメリカとカナダの国境付近から北極圏にかけて広がる地域のことで、世界最大の原生林の一つでもあり、カリブーやオオカミ、ホッキョクグマなど、さまざまな野生動物が生息しています。世界複合遺産にも登録された恵みの大地、森と湖、そして氷が織りなす世界。1999年から大竹氏が20年間見つけてきた、詩情あふれる美しい情景をご覧ください。予定されていたイベントが中止、展示も中断となりましたが、開催期間中は出展者・来館者に新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力いただきながら写真展を楽しんでいただきました。

※2020年度に改めての開催を予定しています。



### ■ Facebook投稿とその反響

臨時休館中、フジフィルム スクエアの公式Facebookでは、富士フィルム株式会社と隔月刊風景写真が2005年から毎年共催している「美しい風景写真100人展」の作品や、コンシェルジュによるお家での写真の楽しみ方、写真で楽しいおうち時間をご提案する動画等を投稿しました。投稿した写真に対し、「素晴らしい写真を見て気持ちが優くなった」「心癒される」などのコメントをいただきました。外出自粛が続く中、Facebookで写真を楽しんでいただく機会となりました。



# 写真展開催リスト

■富士フィルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー／開催写真展 計64本(当社主催企画展14本、その他当社主催・共催・協力写真展12本、公募展38本)	開催イベント		会場		
	ギャラリートーク	その他	富士フィルムフォトサロン 東京		
			スペース1	スペース2	ミニギャラリー
やっぱり銀塩が好き! フィルムの豊かな描写力に感動 フォトグループいぶき 写真展【2019 四季のいぶき】			●	●	
“PHOTO IS”想いをつなぐ、50,000人の写真展 2018より					●
第58回 富士フィルムフォトコンテスト入賞作品発表展	●		●	●	
時代を撮り続けた偉大な写真家の精神を継承 第28回林忠彦賞受賞記念写真展 野村恵子「Otari-Pristine Peaks(オタリ プリスティン ピークス) 山霊の庭」	●		●		
儚くも美しいー 圧倒的存在感にあなたは釘付けになる 山田耕照写真展「ロイヤルベンガルタイガーー フラジャイルな存在ー」	●			●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 銀塩写真表現の深淵を探索し続ける写真家たち その原点と今 ゼラチンシルバーセッション ■「藤井 保 広川泰士 平間 至 瀧本幹也」ーすべてはここからはじまったー ■「FUJIFILM ACROS × 39 Photographers」		トークイベント	●	●	●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 GFXシリーズ特別企画 ラージフォーマットデジタルカメラGFXで描く、カナダ新絶景を巡る旅 吉村和敏写真展「Du CANADA」	●	講演会	●	●	●
自然界の多彩なジャンルが見られる楽しい写真展 日本自然科学写真協会 第40回 SSP展「自然を楽しむ科学の眼 2019-2020」	●		●	●	
第11回 六本木フォトコンテスト写真展		六本木アートナイト			●
東京写真月間2019 日本写真協会賞受賞作品展	●		●		
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 渋谷 敦志写真展「まなざしが出会う場所へー 渴望するアフリカー」	●			●	
光と影が織り成す美しき世界 第92回 日本写真会展覧会	●		●		
作品プリントを求めるあなたに 岡本 洋子&こばやし かをる ～富士フィルム プレミアムプリントで個性を飾る～					●
建築写真のプロだからこそこつめる光と空間 日本建築写真家協会写真展「光と空間」建築の美 Part 13	●		●		
光る植物、光る生き物が魅せる神秘の世界 宮武健仁写真展「輝く光景」	●			●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 11人の写真家の物語。新たな時代、令和へ 「平成・東京・スナップLOVE」 Heisei - Tokyo - Snap Shot Love		ポर्टフォリオレビュー／公開最終選考会／トークイベント	●	●	●
“PHOTO IS”想いをつなぐ、50,000人の写真展 2019			●	●	●
築地市場を個人的な視点で切り取った 全日本写真連盟築地クラブ写真展「残像・築地」	●		●		
北海道に25年間通い続けて出会った美しい光景 小林利男写真展「神々のあそぶ庭ー 大判カメラで捉えた北海道の風景ー」	●			●	
山中湖と富士山が心に響く風景 第12回 山中湖フォトグランプリ写真展					●
楽しく、そしてパワフルに写真表現を極める 第42回女性だけの写真展			●	●	
東京がキラリと光る瞬間が美しい 今井清博 写真展「東京の空の下」	●		●		
まるで絵本を見るかのような素敵な光景 岡田裕介 写真展「Colors ～ペンギン島の物語～」	●			●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 フジフィルム スクエア コンシェルジュ プレミアムプリント展「～わたしたちもトライしました～」					●
祭りは日本人の心意気! JAPAN PHOTO 2018「日本の祭りフォトコンテスト」入賞作品展	●		●		
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 夏休み特別イベント【生物がつくる形のふしぎ】 写真展「放散虫(ほうさんちゅう)」 ～小さな ふしぎな 生き物の 形～		トークイベント／自由研究用リーフレット配布		●	
風景写真界に新風を呼ぶ女性写真家の初個展 喜多 規子 写真展「MOMENT」	●		●		
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 田頭 真理子写真展「夢えっと Onomichi donkey paradise」					●
一年を通して美しき光景が広がる西日本の最高峰「石鎚山」 山下いくよ写真展「My memory いしづち」	●			●	
第7回アフリカ開発会議(TICAD7)開催記念 写真展「アフリカ、胎動する大陸」	●		●		
写真の力で北海道を応援しよう PASHADELIC主催写真展「北海道応援プロジェクト」 北海道復興支援フォトコンテスト受賞作品展	●			●	
富士フィルムフォトコンテスト 歴代グランプリ作品展					●
2019全日本読売写真クラブ展	●		●	●	
絶景よりも「優しき視点」に心が動く 河本 禎 写真展 愛し「大台ヶ原」	●		●		

※緑字は当社主催企画展およびその他当社主催・共催・協力写真展





# 写真展開催リスト

	開催イベント	会場			
		富士フィルムフォトサロン 東京	スペース1	スペース2	ミニギャラリー
	ギャラリートーク	その他			
生命の意味を表現した写真集「マイシャと精霊の木」刊行記念 井上冬彦写真展「MAISHA - サバナナ 光と闇の物語 -」	●		●		
小さな生命が伝えるメッセージを写真で表現する 【企画写真展】ニューボーンフォト bozphoto & styles 藤田 努・麻希「母になる記憶」 Fotopia Photography 飯田 聡子「#胎内記憶」					●
数年に一度しか出会えない貴重な自然現象に驚く 小川清美写真展「30年の軌跡 移ろう季節・スイスアルプス」	●		●		
写真からエンジン音が響き、迫力が伝わる! 日本航空写真家協会写真展「SKY GRAFFITI 2019」	●		●		
色彩の妙、陰影の美、人間模様を表現! 全日本写真連盟フォトフェスティバル2019	●		●	●	
X-T3・X-H1 秋の葉っぱのある風景 ~ 宮沢あきら ~					●
見る人の心を奪う列島の自然美を表現 第6回 写団業師 総合写真展	●		●	●	
東京ディズニーリゾート®・フォトグラフィプロジェクト 「イメージング・ザ・マジック」写真展 “The Magic Lives On”			●	●	●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 「小林 修 写真展 司馬遼太郎『街道をゆく』の視点 歩いた風土、見抜いた時代」		トークショー	●	●	●
自然風景から街、花まで真四角に切り撮る 第38回 ハッセルブラッドフォトクラブ写真展	●		●		
9人の写真家が注ぐサラブレッドへの愛情 「時・サラブレッド2019」第6回競馬写真家グループ展	●			●	
一年間学んだ集大成となる写真展 女性だけの写真教室 卒業作品展					●
KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 SPECIAL EDITION TOKYOGRAPHIE 2019 ■ アルバート・ワトソン「Wild」 ■ 関 健作「2:16.22 —その記録の向こう側—」		トークイベント	●	●	●
最前線の現場でとらえた雑誌ならではの視点 「2019年日本雑誌写真記者会写真展」	●		●		
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 角田明子写真展『サンタさんがいっぱい』 Merry Many Santa Clauses!	●	写真展ガイド		●	
X-T3 アラスカ・カナダを旅して ~ 岡本洋子 ~					●
2019 富士フィルム営業写真コンテスト 入賞作品発表展	●		●		
第15回 美しい風景写真100人展	●		●	●	●
雄大なサバナナが魅せる美しき瞬間 井村 淳 写真展「ALIVE ~GREAT HORIZON~」	●		●		
山里育ちだからこそ奏でられる雪国の音色 横田 國平写真展「雪里」	●			●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 フジフィルム スクエア コンシェルジュ プレミアムプリント展II ~わたしたち、またトライしました~					●
若き感性と鋭い視点でとらえたドキュメントの世界 2019年 第15回「名取洋之助写真賞」受賞作品 写真展	●		●		
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 千葉 格 報道写真展「BACK-GROUND」 文・細江克弥	●			●	
人が作り出した施設を風景と調和させた作品群 「建コン フォト大賞」写真展 ~暮らしの中の土木~	●		●		
変わりゆく麻布 この10年 - めまぐるしく変貌をつづける今日の麻布 - 「麻布未来写真館」パネル展					●
「祝い」をテーマに多彩な表現が集まった 第30回 NHK学園生涯学習写真展	●		●	●	
作品づくりは自分史つづり フォト寺子屋「一の会」創立20周年記念写真展「しあわせの風景」	●		●	●	
【FUJIFILM SQUARE 企画写真展】相原正明写真展「和美・KATACHI(わび・かたち)」 -ネオパン100 ACROS II で撮る日本の美-		スライドトーク			●
夕暮れから宵闇に浮かび上がる宇宙都市の世界 高橋康資写真展「東京ジャンクション」	● <sup>※2</sup>		●		
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 大竹英洋写真展「ノースウッズ-生命を与える大地-」	● <sup>※2</sup>	スライドトーク <sup>※2</sup>		●	
<b>■写真歴史博物館／開催写真展 計3本</b>					
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 「明治に生きた“写真大尽” 鹿島清兵衛 物語」	●				
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 「覚醒する写真たち」今 道子 + 佐藤時啓	●	Part1 今 道子「蘇生するものたち」 2019年9月1日(日)~10月29日(火) Part2 佐藤時啓「呼吸する光たち」 2019年10月30日(水)~12月27日(金)			
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 「日本の美を追い求めた写真家・岩宮武二 京のいろとかたち」	● <sup>※2</sup>				

※緑字は当社主催企画展およびその他当社主催・共催・協力写真展

※1 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館により写真展中断 ※2 新型コロナウイルス感染拡大防止のため期間中イベントを中止

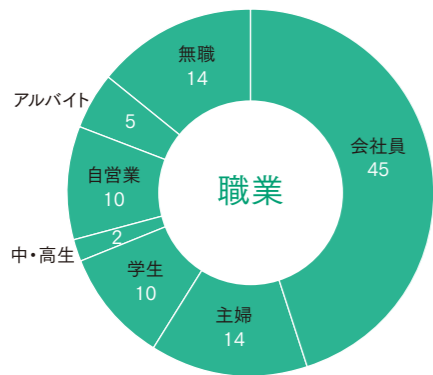
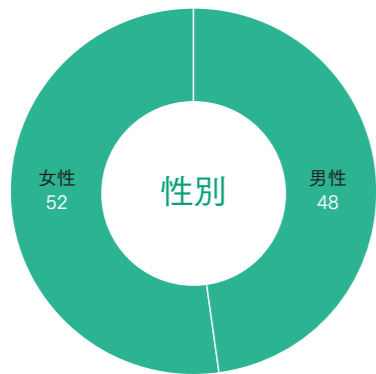


FUJIFILM SQUARE(フジフィルム スクエア)は2019年度、当社が主催する企画展17本、その他当社が主催/共催/協力する写真展12本、プロの写真家やアマチュアの写真愛好家の方から作品を募集する公募展38本、合計67本の写真展を年中無休\*入館無料で開催し、約48万人の方にご来館いただきました。幅広い年齢層のお客様にご来館いただき、メディアでも数多く取り上げられました。また、ギャラリートーク、トークイベント、解説ツアー等、鑑賞サポート活動に力を入れ、1万4千人におよぶ方にご参加いただきました。これからも、出展者の皆様、鑑賞者の皆様と共に、プリントだからこそ伝わる真の写真的価値を共有し、フジフィルム スクエアの活動などを通じ、写真文化を絶えず守り育み続けます。 ※年末年始を除く

## 来館実績

**来館者数**  
年間合計 483,007人

**来館者属性**  
※自社アンケート調査による。(回答人数6,101人、グラフの単位は%)  
2019年度集計期間:2019年4月5日~2020年2月27日



## 交通広告、記事掲載

フジフィルム スクエアでは、下記の主要交通広告にて施設および企画展をご案内しています。また、メディアで数多くご紹介いただいております。当社の媒体であるフジフィルム スクエア公式ホームページやSNSでも多くの方々に支持されています。

**主要交通広告**  
日比谷線・六本木駅、日比谷線・恵比寿駅、千代田線・乃木坂駅、都営大江戸線・青山一丁目駅、東京ミッドタウン

## 主要メディア掲載

- ラジオ  
J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」
  - 中央紙・ブロック紙・地方紙  
朝日新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、東京新聞、日刊県民福井ほか
  - その他新聞  
朝日小学生新聞、THE JAPAN TIMES(Tokyo)、THE JAPAN TIMES(Osaka)、定年時代(東京版)ほか
  - 写真・カメラ紙(誌)  
「アサヒカメラ」、「カメラマン」、「CAPA」、「コマーシャルフォト」、「日本カメラ」、「風景写真」、「フォトコン」、「フォトテクニックデジタル」ほか
  - 雑誌  
「AERA」、「Weeklyプレイボーイ」、「男の隠れ家」、「散歩の達人」、「週刊朝日」、「週刊東洋経済」、「SPUR」、「旅の手帖」、「天然生活」、「プレーン」、「歴史人」ほか
  - ウェブサイト  
朝日新聞デジタル、朝日新聞デジタル&M、infoseekニュース、goo ニュース、グノシー、毎日新聞、Yahoo! ニュース、Yahoo!ロコ、LINE NEWS、47NEWS ほか
- (五十音順)

## 自社媒体

- スクエア公式ホームページ ユーザー数 255,969人
- Facebook、Twitter 投稿件数:338件

## 鑑賞サポート活動

写真展は「撮った人＝出展者」の気持ちを「見た人＝鑑賞者」に伝える場です。フジフィルム スクエアは、写真展を通じてより多くの「人」と「人」の心をつなぐために、さまざまな鑑賞サポート活動を行っています。2019年度は合計13,986人の方にご参加いただきました。

**ギャラリートーク解説会**  
写真展の会期中、写真展会場内で作品解説を行っています。出展者ご自身に解説いただく機会も多く、出展者と鑑賞者の交流の場ともなっています。

ギャラリートーク解説会	開催回数	参加人数
富士フィルムフォトサロンでの企画写真展	65回	1,943人
公募展	70回	2,860人
写真歴史博物館	8回	455人
	計 143回	計 5,258人

## トークイベント、ポートフォリオレビュー、体験、見学会

写真に親しむ機会を幅広くご提供するために、写真展に合わせたイベントを企画開催しています。

トークイベント	参加人数
銀座写真表現の深淵を探索し続ける写真家たち その原点と今 ゼラチンシルバーセッション トークイベント 「ゼラチンシルバーセッション10回の軌跡」 ゲスト:写真家 藤井保、広川泰士、平間至、瀧本幹也 ブックディレクター 幅 允孝	190人
吉村和敏写真展「Du CANADA」 講演会 「カナダ 新・絶景を巡る旅」	221人
「平成・東京・スナップLOVE」 トークイベント ゲスト:有元伸也、ERIC、大西正、大西みつぐ、オカダキサラ、尾仲浩二、中野正貴、中藤毅彦、ハービー・山口、原美樹子、元田敬三	104人
夏休み特別イベント【生物がつくる形のふしぎ】 写真展「放散虫(ほうさんちゅう)」 ■放散虫研究者・松岡篤先生のお話「科学者と考えよう -生物が作るふしぎな形-」 ■放散虫造形作家・横山準氏のお話「生物の形と造形のおもしろさ」	305人
「小林 修 写真展 司馬遼太郎「街道をゆく」の視点 歩いた風土、見抜いた時代」 トークショー ゲスト:小林修、村井重俊	316人
KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 SPECIAL EDITION TOKYOGRAPHIE 2019 トークイベント ■ アルバート・ワトソン「Wild」 ■ 関 健作「2:16.22 -その記録の向こう側-」	206人
相原正明写真展「和美・KATACHI(わび・かたち)」 スライドトーク 「モノクロフィルムで撮る日本の美しい風景」	37人
ポートフォリオレビュー	参加人数
「平成・東京・スナップLOVE」 ポートフォリオレビュー 一次選考(非公開)	58人
「平成・東京・スナップLOVE」 公開最終選考会	85人

体験	参加人数
夏休み特別イベント【生物がつくる形のふしぎ】 写真展「放散虫(ほうさんちゅう)」自由研究用リーフレット配布 クイズに参加「放散虫でサイエンス」	2,522人
夏休み特別イベント【生物がつくる形のふしぎ】 写真展「放散虫(ほうさんちゅう)」自由研究用リーフレット配布 スケッチ・切り紙を体験「放散虫アート」	2,711人
見学会	参加人数
東京都写真美術館	56人
企業メセナ協議会	81人

## 写真歴史博物館コンシェルジュツアー

富士フィルムで写真製品の研究・開発・技術サポートに長年携わったOBがコンシェルジュとして、写真の歴史と企画展について分かりやすく解説しています。

	参加人数
写真の歴史と企画展についての解説ツアー 2019年4月1日から2020年2月20日 毎日1回(年末年始休館日を除く)	1,597人
体験型 写真の歴史を旅するツアー(グループ申込・予約制)	239人

## ご来館者様の声

フジフィルム スクエアでは、ご来館の皆様からさまざまな感想をいただいています。展示作品に対する感動の声を筆頭に、プリントの価値や質の高さ、鑑賞サポート活動、接客スタッフのホスピタリティなどを高く評価するコメントをいただいています。

- プリントが見られることがとても良い。特に、大きなサイズで。
- 光、広がり、色彩、写真の伝えられることの多さに感動しました。
- 圧倒されました。
- 被写体の力強さを感じました。
- 写真の原点が見られた感じがした。
- 良いものと出会わせていただきありがとうございました。
- ギャラリートークが聞いて嬉しかった。撮った人のコンセプトや作品に対する思いを聞けるから。
- 説明をしてもらって、より興味深く鑑賞できます。
- いつも丁寧に対応してもらいありがとうございます。
- 来るたびに癒されます。刺激もいただいています。
- いつ来ても新しい発見があり得るものが多い。これからもずっとワクワクするような写真の世界を見せてください。
- いつも色々な作品を見ることができて楽しいです。近くに来た時は必ず立ち寄っています。
- 心豊かな時を過ごしました。
- 無料というところが、さすが富士フィルムと感じた。
- 文化事業に熱心な企業というイメージを持ちました。
- これからも写真文化の発展のため頑張ってください。

## 施設案内



### 富士フィルムフォトサロン 東京

写真文化の向上と写真の普及に寄与する、クオリティの高いさまざまなジャンルの写真を展示する写真ギャラリーです。プロ・アマを問わず写真の魅力、素晴らしさを表現した作品を厳選し、一週間単位で写真展を開催しております。公募についてはウェブサイトをご覧ください。



### 写真歴史博物館

貴重なアンティークカメラや富士フィルムの歴代カメラの展示に加え、歴史的に価値のある写真を展示する企画展も定期的に開催しています。写真の文化、カメラの歴史的進化をご覧いただける博物館です。170年を超える写真文化の変遷をぜひお楽しみください。



### タッチ フジフィルム

「チェキ」をはじめとする大人気 instax シリーズや富士フィルムのミラーレスデジタルカメラ「GFX・Xシリーズ」、交換レンズなどの最新製品を展示しています。また、スマートフォンからも簡単にご注文いただけるプリントやフォトブックバリエーション、写真をもっと気軽に飾っていただくための「WALL DECOR」、写真を使ったオリジナルギフト「PHOTO GOODS」などを展示し、新しい写真の楽しみ方をご提案しています。



### ASTALIFT ROPPONGI フジフィルム ヘルスケアショップ

TVCMでおなじみの「アスタリフト」をはじめ、長年の写真分野の研究開発で培った独自の技術を応用した富士フィルムの化粧品・サプリメント・ヘアケア製品を全商品取りそろえています。化粧品やドリンクをお試しいただき、ビューティーコンサルタントのアドバイスを受けることもできます。当店限定のお得なキャンペーンなども実施しています。



## FUJIFILM SQUARE

フジフィルム スクエア

開館時間 10:00～19:00 (入館は18:50まで)

無休(年末年始を除く)

入館無料

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3

東京ミッドタウン・ウェスト 1F

TEL.03-6271-3350(10:00～18:00)

<http://fujifilmsquare.jp>

都営大江戸線「六本木駅」8番出口と直結

東京メトロ日比谷線「六本木駅」東京ミッドタウン行き地下通路で徒歩4分

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩5分

- ・本活動報告書の2019年度とは2019年4月1日～2020年3月31日を指します。
- ・本活動報告書に掲載されている「主要メディア掲載」および「ご来館者数」のデータは自社調査に基づくものです。
- ・「ご来館者数」は写真展期間中のフジフィルム スクエア全体のご来館者数の合計です。
- ・「ご来館者様の声」および「来館者属性」は、2019年度に開催された写真展期間(2019年4月5日から2020年2月27日)に実施された自社アンケート調査に基づくものです。
- ・本活動報告書では、銀を含む化学薬品をゼラチンに溶かして塗布した写真用紙に、ネガフィルムなどを通して露光し、現像処理して得られる写真プリントのことを「銀写真プリント\*」と表記しています。  
\*フィルム・デジカメ画像を写真店やラボに依頼してプリントする、従来からの『写真(銀塩方式)』プリントを示す呼称
- ・年間を通じた写真展運営の協力会社は、下記のとおりです。  
展示作業:株式会社フレームマン  
展示物・告知物制作:富士フィルムイメージングシステムズ株式会社  
運営協力:富士フィルムビジネスエキスパート株式会社

## フジフィルム スクエア 2019年度 活動報告書

発行日: 2020年7月

発行・編集:富士フィルム株式会社

コーポレートコミュニケーション部 宣伝部

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3

発行者:青木宇雄

デザイン:株式会社ラジアン

制作:株式会社ジョーメイ

©富士フィルム株式会社 禁無断転載